平成2 9 年度

鳥取県アレルギー疾患実態調査結果

平成 31 年 3 月

鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課

目　　次

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的 …… ２
２　調査対象の範囲 …… ２
３　調査方法 …… ２
４　調査時期 …… ２
５　回答状況 …… ２

Ⅱ　調査結果の概要

１　平成２９年度鳥取県アレルギー疾患実態調査結果の評価と今後の対応方針 …… ４
２　【参考】鳥取県におけるアレルギー疾患別のり患数・り患率推計 …… ７

Ⅲ　調査結果

１　アレルギー疾患に対する保護者調査
（１）現在のアレルギー疾患のり患状況 …… １０
（２）現在のアレルギー疾患のある児・児童生徒の内訳 …… １２
（３）現在のアレルギー疾患別診断・受診等の状況 …… １３
（４）アレルギー疾患別の既往状況…… １６
（５）食物アレルギー児の年代別り患状況 …… ２０
（６）食物アレルギーの原因食物 …… ２０
（７）食物アレルギーに対する食事制限 …… ２１
（８）食物アレルギーに対する食事制限への診断 …… ２２
（９）食物アレルギーに対する誤食の状況 …… ２３
（１０）食物アレルギーに対する園・学校の対応 …… ２４
（１１）エピペンの処方について …… ２５
（１２）エピペンの取扱いについて …… ２６
（１３）保護者からの意見要望 …… ２８

２　アレルギー疾患に関する施設調査

【保育園・幼稚園】
（１）保育職員の概数 …… ２９
（２）アレルギー疾患のある児が在籍する施設割合 …… ３０
（３）アレルギー疾患別の在籍状況 …… ３０

（4）アレルギー疾患別の受け入れ状況と対応 …… ３１
①アトピー性皮膚炎
②食物アレルギー
③気管支喘息
④アレルギー性鼻炎
⑤アレルギー性結膜炎
⑥じんましん
⑦アナフィラキシー
⑧口腔アレルギー症候群
（5）食物アレルギー、アナフィラキシーの対応で困ったこと …… ４６
（6）施設からの要望 …… ４６

【小学校】
（1）アレルギー疾患のある児童が在籍する施設割合 …… ４７
（2）気管支喘息のある児童への学校の対応について …… ４７
（3）食物アレルギーに対する誤食の状況 …… ４８
（4）アレルギー性鼻炎・結膜炎への学校の対応について …… ４９
（5）学校からの要望 …… ４９

【中学校】
（1）アレルギー疾患のある生徒が在籍する施設割合 …… ５０
（2）気管支喘息のある生徒への学校の対応について …… ５０
（3）食物アレルギー …… ５１

Ⅳ　資料編 …… ５２

Ⅴ　資料（調査票） …… ６７

Ⅰ　調査の概要

１　調査目的

鳥取県の保育所・幼稚園（以下「園」という。）及び小・中学校におけるアレルギー疾患を有する児の実態を明らかにし、今後の本県におけるアレルギー疾患対策の基礎資料とする。

２　調査対象の範囲

（１）地域的範囲
　　鳥取県全域
（２）属性的範囲
　　①乳幼児・学童（小学校全学年）・生徒（中学校全学年）の保護者
　　②①の所属する園の管理者及び小・中学校の養護教諭
（３）対象の選定方法
　　鳥取県福祉保健部及び鳥取県教育委員会が有する一覧から対象となる園及び学校を無作為抽出

３　調査方法

委託先の公益社団法人鳥取県医師会から、平成３０年２月１日現在の上記２（２）の施設管理者に対して、無記名による自記式調査票の協力依頼を、郵送にて配布・回収を行った。

４　調査時期

（１）調査票配布開始　平成３０年２月７日
（２）調査票回収終了　平成３０年３月２３日

５　回答状況

（１）保護者

区分	対象人数 A	回収数 B	回収率% (B/A)
保育所・幼稚園	３，２１０	２，７８４	８６．７
小学校	２，７５０	２，４５３	８９．２
中学校	１，３０５	１，０４０	７９．７

（２）園及び学校（児童生徒数計：7,265 名）

区分	対象施設 A	回収数 B	回収率% (B/A)
保育所・幼稚園	２９	２８	９６．６
小学校	１０	１０	１００
中学校	５	５	１００

Ⅱ　調査結果の概要

平成２９年度鳥取県アレルギー疾患実態調査結果の評価と今後の対応方針

本調査は、園及び小・中学校の施設管理者及び在籍する児・児童生徒の保護者に対して、施設単位に調査票を配布・回答の協力を依頼したものである。

保護者からの回答には、選択肢による矛盾や無回答が散見されるものがあったが、回収率は概ね高く中学生以外は９５％±５％の信頼度が得られ、本県のアレルギー疾患の実態把握をすることができたと推察する。

この調査結果を、関係者に還元するとともに、県民にも公表し、広く意見等も集約しながら、今後のアレルギー対策の推進に努めていくこととする。

１　調査回答の状況

平成３０年２月２日現在の鳥取県福祉保健部及び鳥取県教育委員会が有する一覧から園２９施設、小学校１０校、中学校５校を無作為抽出し、平成３０年２～３月にかけて当該施設管理者と在籍する児・児童生徒７，３０９名に調査票を配布し、６，３２０名から回答が得られた。

２　アレルギー疾患のり患状況

（１）アレルギー疾患の複数合併とアレルギーマーチ

「アレルギー性鼻炎」と「アレルギー性結膜炎」は年齢とともにり患率が増加している。

成長につれてり患率が増加するアレルギー疾患や、複数の疾患を合併する場合も多く、本調査では１人あたり最多で「８疾患」を有する者もあった。

また、小児のアレルギー疾患は年齢に応じて、症状や原因が変化する「アレルギーマーチ」が一般的に指摘されている。今回の調査結果からも、特に中学生になると、アトピー性皮膚炎や気管支喘息が少なくなり、アレルギー性鼻炎やアレルギー性結膜炎が多くなる傾向にあった

アレルギー性鼻炎の低年齢化も指摘されるなか、「アレルギーマーチ」が今回の調査結果からもうかがわれる。

また、そのアレルゲンも特に食物アレルギーでは、幼児期は卵、牛乳が原因食物の多数を占めていたが、その後は減少し、中学生になると甲殻類や魚介類、果物などが多くなっている。他の報告同様に、経年的な違いが今回の調査結果からもみられ、その都度個々への注意深い対応が求められると考えられる。

以上のことから、年齢に応じアレルギー疾患の対応が異なること、また、多疾患にり患している状況からも、複数の診療科での診療が必要となる場合が多く、医療提供側の理解や、かかりつけ医とアレルギー専門医や各診療科専門医と連携し、総合的にアレルギー疾患患者の健康管理を支援していくことが重要となる。

そのためにも、アレルギー診療の基幹医療機関の整備と、かかりつけ医を含めた病診連携体制を構築していく必要がある。

（２）アレルギー疾患り患率について

今回の全体的なアレルギー疾患り患状況の傾向としては、概ね全国と同様の傾向がみられた。

過去の調査は、施設への調査が中心であったが、今回は、保護者への調査も同時に実施しており、園・学校での把握と保護者の回答との間に、多少の乖離が見られた。これらの調査結果をどう捉えるかが問題となるが、項目の解釈の違いなどアンケート調査の限界もあると思われる。特に、アトピー性皮膚炎や喘息での乖離が大きいが、症状が軽い場合等、園・学校での対応を希望しない場合は、園・学校に申告していないことも考えらえる。

しかし、今回の調査では、保護者が医師による診断がない場合も「アレルギー疾患がある」との回答があり、医師からの正しい指導や治療を受けていない可能性も考えられた。

３　食物アレルギーの対応について

（1）食物アレルギー児・児童生徒の受け入れ状況

園・学校でアレルギー疾患のある児・児童・生徒の受け入れは、「食物アレルギー」が最も多く、1 施設あたり「２０人 以上」を受け入れている施設もあった。

園・学校での食事制限が必要と回答があった児の割合は、半数を占めており、誤食によるアナフィラキシー等健康被害の防止に向けて、集団生活の中で職員間の情報共有や対応の徹底が必要である。

（2）誤食の状況

保護者から「誤食があった」の回答が、園児１８．５％、小学生９．４％、中学生１０．３％みられた。施設からの回答でも、園２８．６％、小学校２０％と園・学校での誤食が、少なくとも１０～１５％程度発生しており注意が必要である。また、誤食回数も３回以上と複数回ある場合もあり、施設での食物アレルギーへの対応の再検討が必要である。

（3）園・学校での初発症状

食物アレルギー初発が、園で１４．３％、小学校においても２０．０％あり、園・学校でアレルギー症状やアナフィラキシーを初発することもあるということを念頭におき、すべての施設で疾患の理解と緊急時の対応を理解する必要があると思われる。

（4）医師の診断状況

食物アレルギーで、医師の診断を受けていない場合もあり、保護者の判断で不要な食事制限をしている可能性もある。特に、園児２０．４％、小学生３０．８％、中学生４１．３％と、中学生ではその割合が高くなる。

また、園・学校での食事制限の書類提出なしが、園児で２．５％、小学生１４．２％、中学生２５．６％と増加している。

学年が進むにつれ学業や部活動、またその他の活動等により、時間的に受診しにくい状況が多くなることが推測される。本来、特に食物アレルギーなどは個別性や、軽快と悪化など経過による症状変化も多く、きめ細かい対応が求められるだけに、本当に必要な医療的検討がなされているのかが心配されるところである。

（5）園の体制について

園の施設調査から、専門職の配置状況をみると看護師０人：５７．２％、栄養士０人：４２．９％であり、また「アレルギー児対応に困った事」で、「発症時対応が困る」が比較的多く見られ、看護師配置がない状況では医療的な判断が困難な状況も考えられる。

また、園での食事制限は、代替食提供が６７．１％と多く、また困りごとに、「発症時対応」や「食事体制」と共に、「調理が大変」、「調理献立が大変」との回答も多く、現在の状況では食物アレルギー児の対応に苦慮していることがわかった。

多数のアレルギー疾患児を受け入れている園も少なくないことから、個々の職員の負担軽減等について、今後の検討が必要と考える。

４　アナフィラキシーの対応について

（1）エピペンへの対応体制

園施設で、「職員が使用できる体制にない」が１施設（８．３％）あり、「預かってもらえない」園が２施設（１６．７％）であった。

医療機関からエピペンの処方がされていても、園での体制が整っていないために使用できなければ、緊急時の対応としては不十分である。全施設で、エピペンを適正に使用できる体制づくりが急務である。

（2）アナフィラキシーの事前把握

事前にアナフィラキシーなどが充分把握されていない可能性のある施設も散見された。園の施設調査から、じんましん１４．３％、アナフィラキシー７．１％は、事前にアナフィラキシーを把握してない可能性がある。

アナフィラキシーは生命の危険に関わることから、事前把握を徹底し、準備を整えておく必要がある。

（3）アナフィラキシーの医療的診断

保護者調査では、園児１．４％、小学生２．０％、中学生１．２％にアナフィラキシーありとの回答があるが、園・学校の施設調査では、０．５％程度の回答にとどまっている。

アナフィラキシーは生命にかかる疾患であり、個々の児に適した状況が整えられているのかが危惧される。また、保護者調査では、アナフィラキシーがあるが、「診断がない」が小学校４０．８％、中学校５８．３％と半数近くで正確なアナフィラキシーの診断がなされていないことが推察される。

また、１年以上医療機関を受診していない児は、園児２０％、小学生３２．０％であり、その詳細な理由は不明であるが、アナフィラキシーの診断根拠がはっきりせず、医療機関を長期間受診していないなどの理由が考えられる。

保護者の理解を得ることと、医療的診断のもとに治療を受けやすいような環境整備が必要と思われれる。

５　今後の本県のアレルギー疾患対策への保護者からの要望

○園・学校に対しての要望

アレルギー疾患に関する職員間の情報共有と知識の向上を望む声があり、職員向けの研修会の実施が必要と考える。

○行政に対しての要望

「医師間の認識統一」を不安に感じる声があり、また、受診することや診断書を受けることに負担を感じているとの声もあり、アレルギー疾患の病状に応じた適切な医療が受けられるよう、更なる医療体制の整備が必要である。

６　全体を通して

アレルギー疾患の状態に応じて適切な医療が受けられるよう、アレルギー疾患の標準的な治療が実施できる医療体制の整備を進め、また、県民に対し、アレルギー疾患に関する正しい知識の普及啓発に取り組むことが求められている。

今回の調査から、すべての保護者が医師からの正しい指導や治療をうけているかが懸念された。

①保護者には、アレルギー疾患への理解を深めてもらい、特に食物アレルギーでは個別性が強く、その人その時でアレルゲンも、反応の仕方や程度も違うことをさらに理解してもらい、こまめに専門的な診断を受けることが必要であること、一方で受診しやすい体制をどのように整えていくかを検討する必要がある。

②園・学校においては、アレルギー疾患に対応する体制をどう整えていくか、食物アレルギーに対しては、除去食だけでなく代替食の提供など、誤食を防ぎながら、食育の観点からも、園・学校内での患児の生活の質の向上をどのように図っていくのかが課題となると思われる。

③職員向けの研修などを通して、エピペン処方や治療対応、丁寧な患児及び家族への指導などについて、かかりつけ医の理解を深め、同時に専門的なアドバイスなども受けやすい体制として、アレルギー診療の基幹病院の整備と病診連携の一層の強化が必要と思われる。

本調査結果を関係機関と共有し、アレルギー疾患をもつ子どもたちが、安心・安全な生活を過ごすことができる鳥取県を目指し、より一層アレルギー対策の推進に努める必要がある。

【参考】鳥取県におけるアレルギー疾患別のり患数・り患率推計

園・学校調査で、「医療機関での治療中や管理指導表による指導を受けている」と回答のあった児、児童生徒のアレルギー疾患別り患状況から、本県のアレルギー疾患のり患数（り患率）を推計すると、小学生の「アレルギー性鼻炎」が最も多く、県内で２，０００人（６．８％）を上回るり患数が推定される。

園児では、「食物アレルギー」が約１，５００人（５．３％）、中学生では小学生と同じく「アレルギー性鼻炎」が多いとみられ約１，８００人（１１．９％）と推定される。

年齢が上がるにつれて増加傾向がみられるのは「アレルギー性結膜炎」で、減少傾向がみられるのは「食物アレルギー」であり、全国の傾向と同様に成長と共に「アレルギーマーチ」の状態が生じていると推測する。　（平成 29 年 10 月 1 日現在、人口動態統計から算出）

アレルギー疾患名	疾患者数（人）（医療機関での治療中や管理指導表による指導をうけている児、児童生徒）			県全体のり患数（り患率）　推計		
	園児	小学生	中学生	園児	小学生	中学生
アトピー性皮膚炎	４８	７２	２９	４０５人（１．５%）	７６８人（２．６%）	３４２人（２．２%）
食物アレルギー	１６９	８０	３０	１，４２６人（５．３%）	８５３人（２．９%）	３５３人（２．５%）
気管支喘息	６３	７５	４５	５３２人（２．０%）	８００人（２．７%）	５３０人（３．４%）
アレルギー性鼻炎	１８	１８８	１５５	１５２人（０．６%）	２，００４人（６．８%）	１，８２５人（１１．９%）
アレルギー性結膜炎	６	６８	６０	５１人（０．２%）	７２５人（２．５%）	７０７人（４．６%）
じんましん	２５	４	４	２１１人（０．８%）	４３人（０．１%）	４７人（０．３%）
アナフィラキシー	１７	１７	３	１４３人（０．５%）	１８１人（０．６%）	３５人（０．２%）
口腔アレルギー症候群	０	１０	３	―	１０７人（０．４%）	３５人（０．２%）

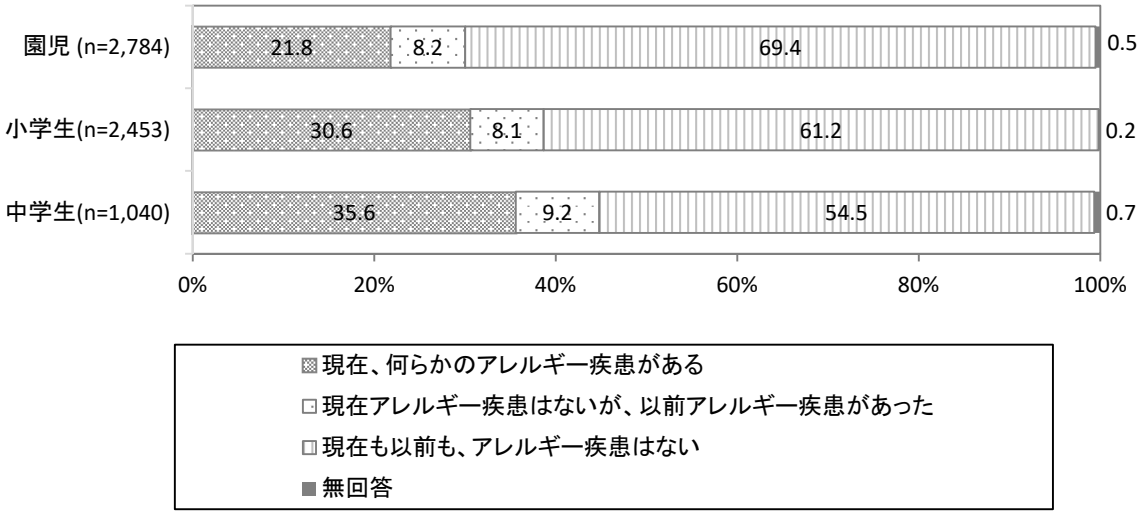
Ⅲ　調査結果

1　アレルギー疾患に対する保護者調査

（1）現在のアレルギー疾患のり患状況

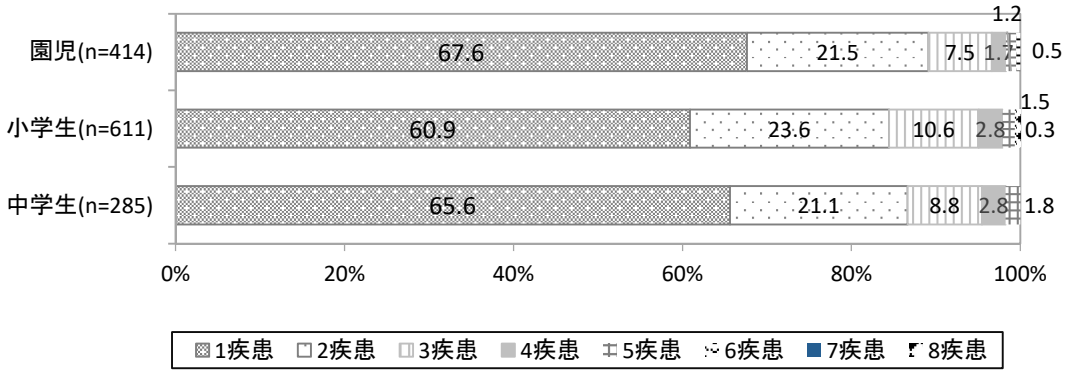
「現在、何らかのアレルギー疾患がある」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 21.8%、小学生 30.6%、中学生 35.6%であった。
「現在アレルギー疾患はないが、以前アレルギー疾患があった」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 8.2%、小学生 8.1%、中学生 9.2%であった。

年代別アレルギー疾患の状態



現在、何らかのアレルギー疾患で医師の診断を受けている児・児童生徒の中で、複数のアレルギー疾患がある割合は、どの年代でも「1疾患」が多く、園児 67.6%、小学生 60.9%、中学生 65.6%であった。
なお、「8 疾患」全ての疾患があるのは、小学生 0.3%のみであった。

年代別・複数の疾患を有する割合



現在、医師からアレルギー疾患の診断を受けている児・児童生徒の他のアレルギー疾患との合併状況をみると、「口腔アレルギー症候群」または「アナフィラキシー」の診断があったどの年代も「食物アレルギー」を合併している割合がみられた。「口腔アレルギー症候群」と「アナフィラキシー」を除いた疾患では、「アレルギー性結膜炎」の診断を受けた児童生徒で「アレルギー性鼻炎」を合併している割合は、小学生では約69.8%、中学生では81.4%であった。

園児で、医師の診断を受けている疾患で最も多かった「食物アレルギー」合併状況は、「アトピー性皮膚炎」が31.2%、次いで「気管支喘息」19.0%、「アレルギー性鼻炎」10.6%の順であった。

小学生で、医師の診断を受けている疾患で最も多かった「アレルギー性鼻炎」の合併状況は、「アトピー性結膜炎」が18.3%、次いで「アトピー性皮膚炎」17.7%、「気管支喘息」16.5%の順であった。

中学生で、医師の診断を受けている疾患で最も多かった「アレルギー性鼻炎」では、「アレルギー性結膜炎」が25.8%、次いで「アトピー性皮膚炎」14.5%、「気管支喘息」11.3%の順であった。

■各アレルギー疾患の合併状況

【園児】

（合併） 疾患名	人数	アトピー性皮膚炎		食物アレルギー		気管支喘息		アレルギー性鼻炎		アレルギー性結膜炎		じんましん		アナフィラキシー		口腔アレルギー症候群		その他	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
アトピー性皮膚炎	135			59	43.7	28	20.7	11	8.1	4	3.0	18	13.3	11	8.1	1	0.7	1	0.7
食物アレルギー	189	59	31.2			36	19.0	20	10.6	4	2.1	18	9.5	19	10.1	1	0.5	4	2.1
気管支喘息	130	28	21.5	36	27.7			15	11.5	3	2.3	9	6.9	6	4.6	0	0.0	8	6.2
アレルギー性鼻炎	64	11	17.2	20	31.3	15	23.4			2	3.1	6	9.4	3	4.7	0	0.0	1	1.6
アレルギー性結膜炎	8	4	50.0	4	50.0	3	37.5	2	25.0			2	25.0	2	25.0	1	12.5	0	0.0
じんましん	37	18	48.6	18	48.6	9	24.3	6	16.2	2	5.4			7	18.9	1	2.7	2	5.4
アナフィラキシー	20	11	55.0	19	95.0	6	30.0	3	15.0	2	10.0	7	35.0			1	5.0	0	0.0
口腔アレルギー症候群	1	1	100.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0	1	100.0	1	100.0			0	0.0
その他	32	1	3.1	4	12.5	8	25.0	1	3.1	0	0.0	2	6.3	0	0.0	0	0.0		

【小学生】

（合併） 疾患名	人数	アトピー性皮膚炎		食物アレルギー		気管支喘息		アレルギー性鼻炎		アレルギー性結膜炎		じんましん		アナフィラキシー		口腔アレルギー症候群		その他	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
アトピー性皮膚炎	175			55	31.4	46	26.3	58	33.1	18	10.3	17	9.7	13	7.4	4	2.3	6	3.4
食物アレルギー	136	55	40.4			23	16.9	46	33.8	16	11.8	24	17.6	23	16.9	9	6.6	14	10.3
気管支喘息	155	6	3.9	32	20.6			54	34.8	19	12.3	10	6.5	9	5.8	3	1.9	5	3.2
アレルギー性鼻炎	327	58	17.7	46	14.1	54	16.5			60	18.3	19	5.8	5	1.5	3	0.9	9	2.8
アレルギー性結膜炎	86	18	20.9	16	18.6	19	22.1	60	69.8			10	11.6	5	5.8	3	3.5	4	4.7
じんましん	43	17	39.5	24	55.8	10	23.3	19	44.2	10	23.3			12	27.9	5	11.6	3	7.0
アナフィラキシー	25	13	52.0	23	92.0	9	36.0	5	20.0	5	20.0	12	48.0			5	20.0	2	8.0
口腔アレルギー症候群	9	4	44.4	9	100.0	3	33.3	3	33.3	3	33.3	5	55.6	5	55.6			1	11.1
その他	40	6	15.0	4	10.0	5	12.5	9	22.5	4	10.0	3	7.5	2	5.0	1	2.5		

【中学生】

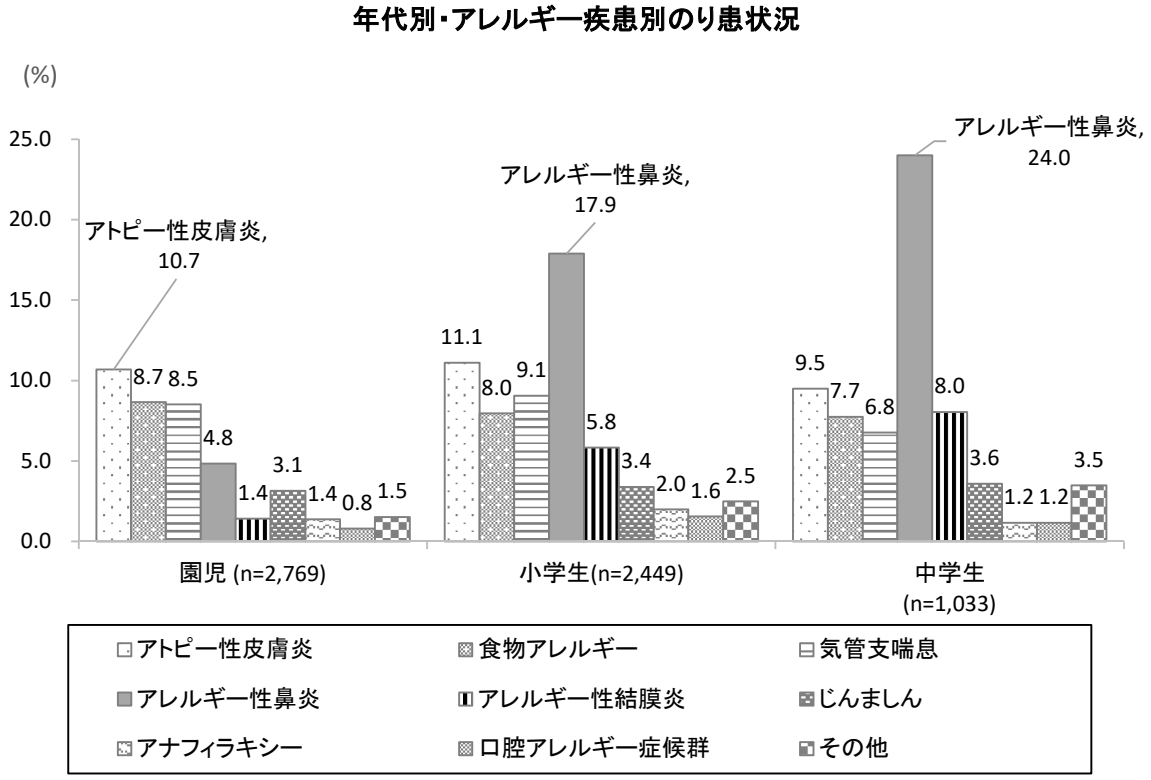
（合併） 疾患名	人数	アトピー性皮膚炎		食物アレルギー		気管支喘息		アレルギー性鼻炎		アレルギー性結膜炎		じんましん		アナフィラキシー		口腔アレルギー症候群		その他	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
アトピー性皮膚炎	64			12	18.8	11	17.2	27	42.2	18	28.1	2	3.1	1	1.6	1	1.6	2	3.1
食物アレルギー	44	12	27.3			6	13.6	18	40.9	8	18.2	6	13.6	2	4.5	4	9.1	2	4.5
気管支喘息	42	11	26.2	6	14.3			21	50.0	10	23.8	4	9.5	2	4.8	0	0.0	0	0.0
アレルギー性鼻炎	186	27	14.5	18	9.7	21	11.3			48	25.8	7	3.8	2	1.1	5	2.7	8	4.3
アレルギー性結膜炎	59	18	30.5	8	13.6	10	16.9	48	81.4			4	6.8	2	3.4	3	5.1	0	0.0
じんましん	13	2	15.4	6	46.2	4	30.8	7	53.8	4	30.8			2	15.4	1	7.7	0	0.0
アナフィラキシー	3	1	33.3	2	66.7	2	66.7	2	66.7	2	66.7	2	66.7			0	0.0	0	0.0
口腔アレルギー症候群	5	1	20.0	4	80.0	0	0.0	5	100.0	3	60.0	1	20.0	0	0.0			0	0.0
その他	27	2	7.4	2	7.4	0	0.0	8	29.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		

（２）現在のアレルギー疾患のある児・児童生徒の内訳

アレルギー疾患別のり患状況では、園児では「アトピー性皮膚炎」が 10.7%と最も多く、次いで「食物アレルギー」8.7%、「気管支喘息」8.5%の順であった。

小学生では、「アレルギー性鼻炎」が 17.9%、次いで「アトピー性皮膚炎」11.1%、「気管支喘息」9.1%の順であった。

中学生では、「アレルギー性鼻炎」が 24.0%、次いで「アトピー性皮膚炎」9.5%、「アレルギー性結膜炎」8.0%の順であった。



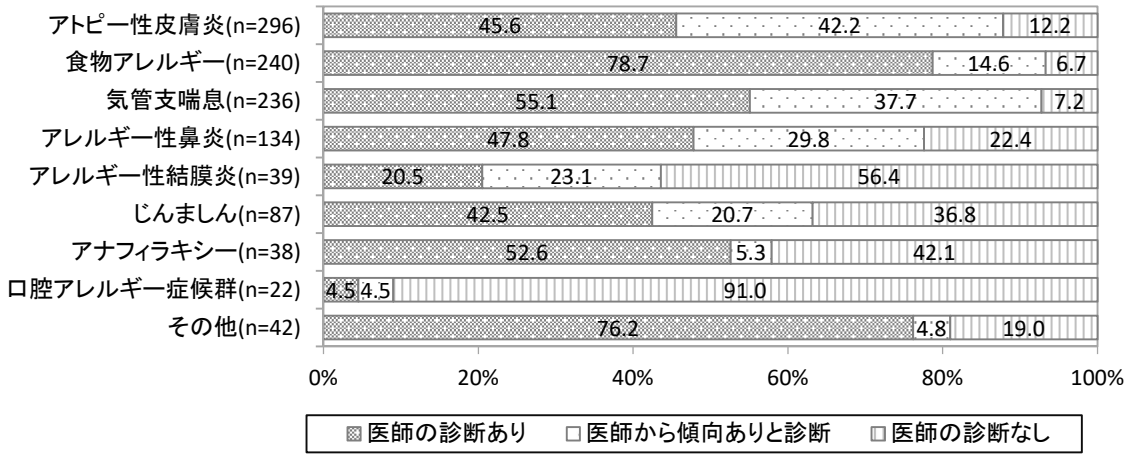
（３）現在のアレルギー疾患別診断・受診等の状況

【園児】

現在のアレルギー疾患があると回答があった園児の診断状況では、「医師から診断を受けている」と「医師からその傾向があるといわれたことがある」を合わせると、「食物アレルギー」の割合が 93.3%と最も多く、次いで「気管支喘息」92.8%、「アトピー性皮膚炎」87.8%、「アレルギー性鼻炎」77.6%の順であった。

なお、「医師の診断がない」が一定の割合あり、「口腔アレルギー症候群」と「アレルギー性結膜炎」では特にその割合が多い傾向にあった。

アレルギー疾患別の診断

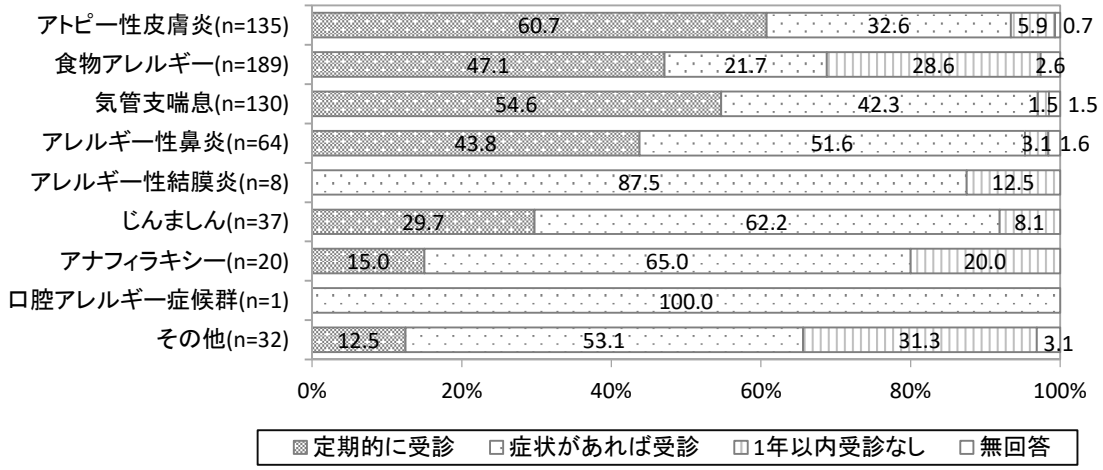


医師の診断を受けた園児で定期的に受診しているのは、「アトピー性皮膚炎」の割合が 60.7%と最も多く、次いで「気管支喘息」54.6%、「食物アレルギー」47.1%の順であった。

症状があれば受診しているのは、「口腔アレルギー疾患」が 100%受診で、次いで「アレルギー性結膜炎」87.5%、「アナフィラキシー」65.0%の順であった。

また、「1 年以内受診していない」と回答があったのは、「食物アレルギー」が 28.6%、次いで「アナフィラキシー」20.0%、「アレルギー性結膜炎」12.5%、「じんましん」8.1%の順であった。

アレルギー疾患別受診状況（n=医師の診断あり）

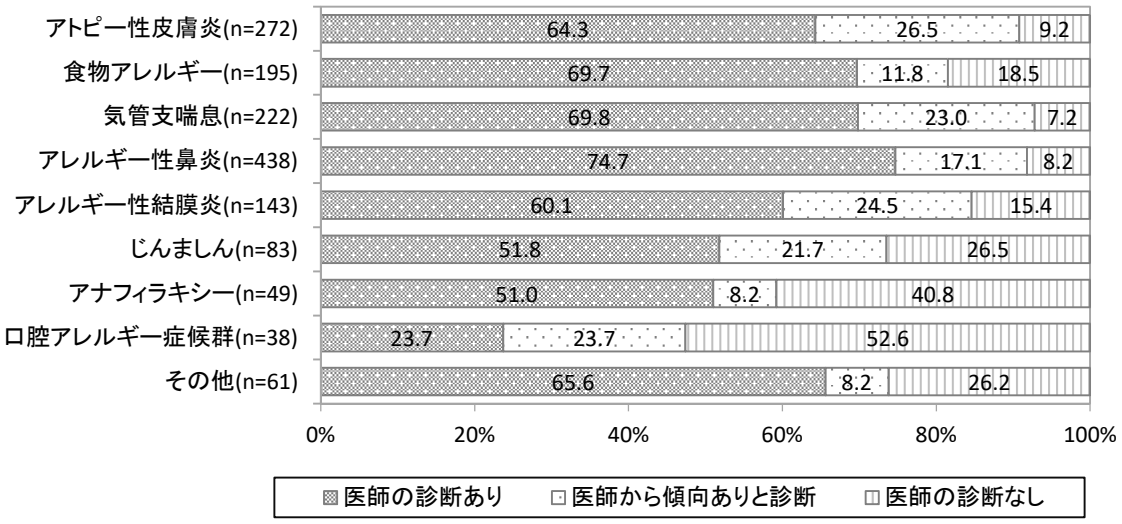


【小学生】

現在のアレルギー疾患があると回答があった児童の診断の状況では、「医師から診断を受けている」と「医師から傾向があるといわれたことがある」を合わせると、「気管支喘息」の割合が 92.8%と最も多く、次いで「アレルギー性鼻炎」91.8%、「アトピー性皮膚炎」90.8%、「食物アレルギー」81.5%の順であった。

「医師の診断がない」が一定の割合あり、「口腔アレルギー症候群」と「アナフィラキシー」では、特にその割合が多い傾向にあった。

アレルギー疾患別の診断

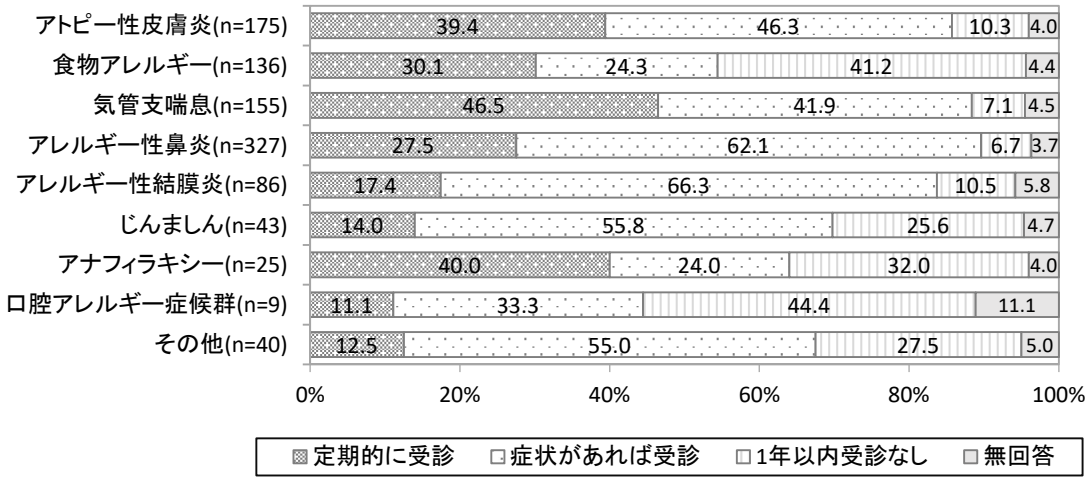


医師の診断を受けた児童で定期的に受診しているのは、「気管支喘息」の割合が 46.5%と最も多く、次いで「アナフィラキシー」40.0%「アトピー性皮膚炎」39.4%、「食物アレルギー」30.1%の順であった。

症状があれば受診しているのは、「アレルギー性結膜炎」が 66.3%、次いで「アレルギー性鼻炎」62.1%、「じんましん」55.8%の順であった。

また、「1 年以内受診していない」と回答があったのは、「口腔アレルギー症候群」が 44.4%、次いで「食物アレルギー」が 41.2%、次いで「アナフィラキシー」32.0%の順であった。

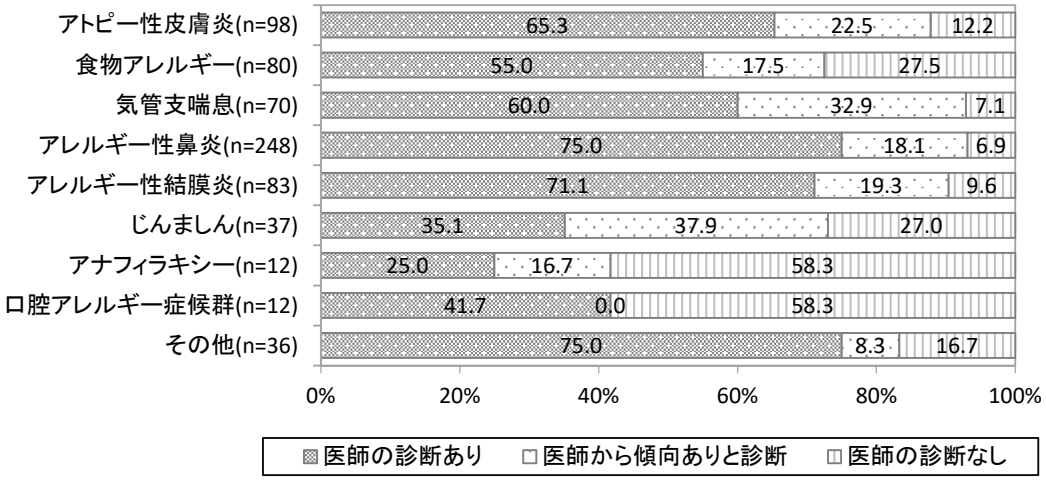
アレルギー疾患別受診状況(n=医師の診断あり)



【中学生】

現在のアレルギー疾患があると回答があった生徒の診断の状況では、「医師から診断を受けている」と「医師から傾向があるといわれたことがある」を合わせると、「アレルギー性鼻炎」の割合が 93.1%と最も多く、次いで「気管支喘息」92.9%、「アレルギー性結膜炎」90.4%、「アトピー性皮膚炎」87.8%の順であった。「医師の診断がない」が一定の割合あり、「口腔アレルギー症候群」と「アナフィラキシー」では、特にその割合が多い傾向にあった。

アレルギー疾患別の診断

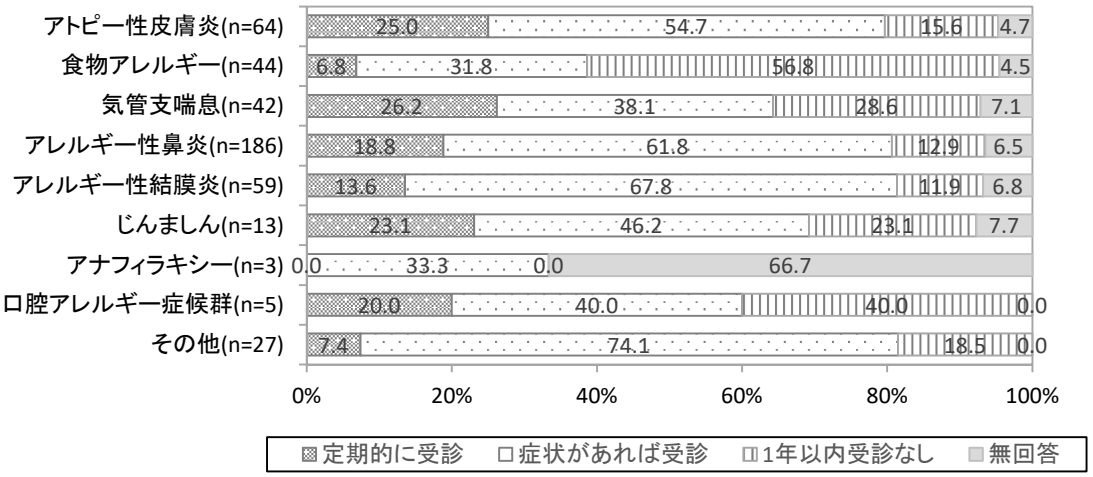


医師の診断を受けた生徒で定期的に受診しているのは、「気管支喘息」の割合が 26.2%と最も多く、次いで「アトピー性皮膚炎」25.0%、「じんましん」23.1%の順であった。

症状があれば受診しているのは、「アレルギー性結膜炎」が 67.8%、次いで「アレルギー性鼻炎」61.8%、「アトピー性皮膚炎」54.7%、「じんましん」46.2%の順であった。

また、「1 年以内受診していない」と回答があったのは、「食物アレルギー」が 56.8%、次いで「アナフィラキシー」40.0%、「気管支喘息」28.6%の順であった。

アレルギー疾患別受診状況（n=医師の診断あり）



（４）アレルギー疾患別の既往状況

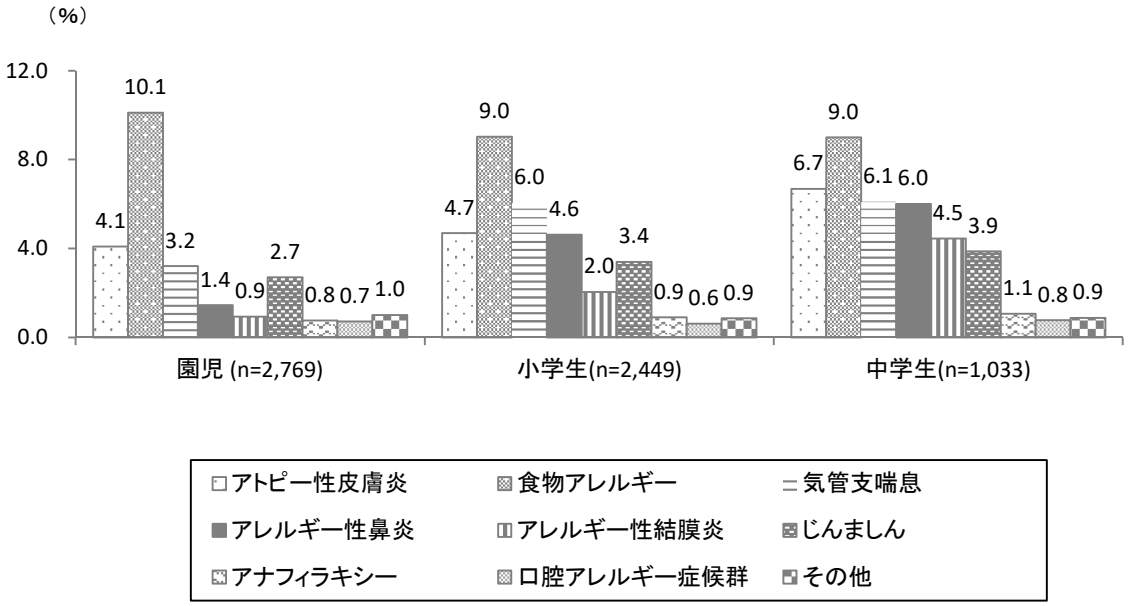
「現在はないが、以前アレルギー疾患があった」と回答があった児・児童生徒の割合は、どの年代でも「食物アレルギー」が最も多かった。

園児では「食物アレルギー」の割合が 10.1%、次いで「アトピー性皮膚炎」4.1%、「気管支喘息」順であった。

小学生では、「食物アレルギー」が 9.0%で高く、次いで「気管支喘息」6.0%、「アトピー性皮膚炎」4.7%の順であった。

中学生では「食物アレルギー」が 9.0%、次いで「アトピー性皮膚炎」6.7%、「気管支喘息」6.1%の順であった。

以前あったアレルギー疾患・年代別の状況

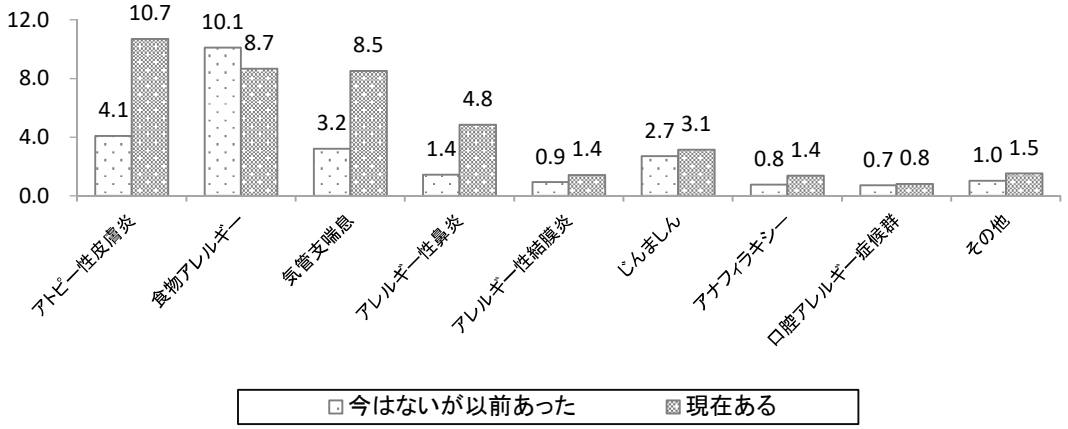


【園児】

今はないが以前あったアレルギー疾患で回答が多かった「食物アレルギー」は 10.1%だったが、現在疾患があると回答があった園児は、8.7%だった。

現在アレルギー疾患があると回答が多かった「アトピー性皮膚炎」は 10.7%で、今はないが以前あったと回答があった児は 4.1%であった。また、「気管支喘息」は現在疾患があると回答があったのは 8.5%で、今はないが以前あった園児は 3.2%であった。

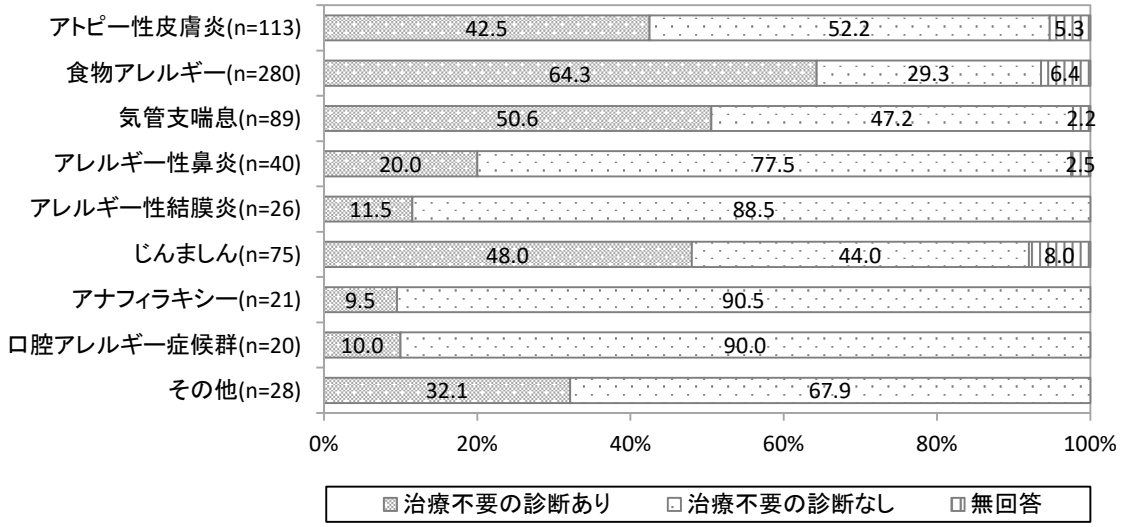
疾患別にみる現疾患と既往歴



以前にアレルギー疾患があったと回答があった園児で、医師から治療不要の診断があったのは、「食物アレルギー」が 64.3%で最も多く、次いで「気管支喘息」50.6%、「じんましん」48.0%の順であった。

また、医師から治療不要との診断を受けていないのは、「アナフィラキシー」の割合が 90.5%で最も多く、次いで「口腔アレルギー症候群」90.0%、「アレルギー性結膜炎」88.5%の順であった。

過去のアレルギー疾患別の診断

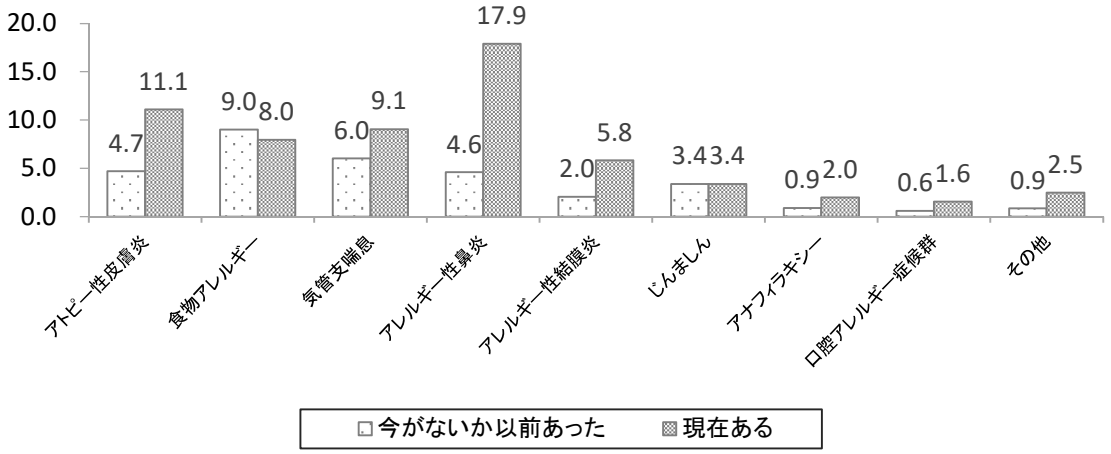


【小学生】

今はないが以前あったアレルギー疾患で回答が多かった「食物アレルギー」は9.0%だったが、現在疾患があると回答があった児童は、8.0%だった。

現在アレルギー疾患があると回答が多かった「アトピー性鼻炎」は 17.9%で、今はないが以前あったと回答があった児童は 4.6%であった。また、「アトピー性皮膚炎」は、現在疾患があると回答があったのは11.1%で、今はないが以前あった児童は4.7%であった。

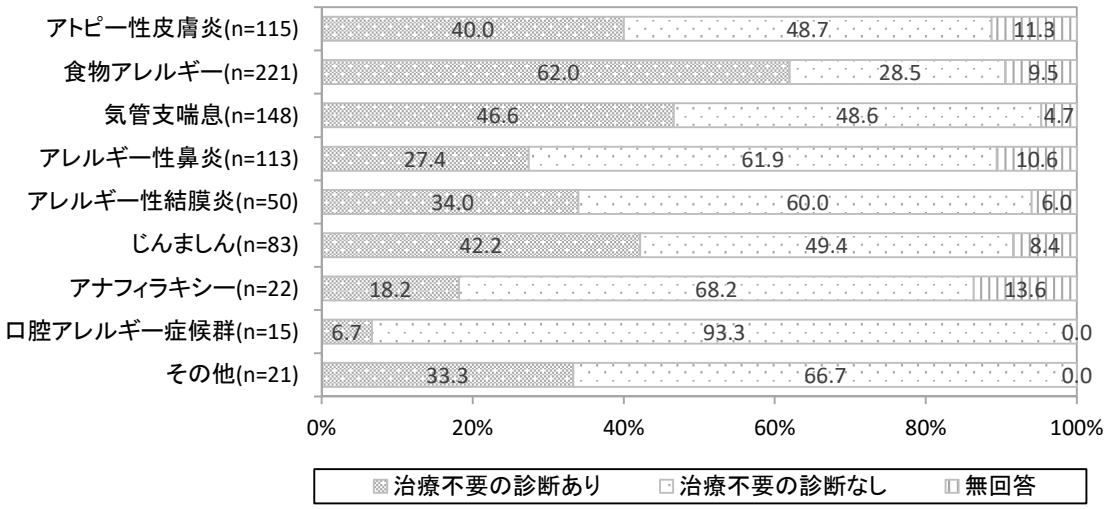
疾患別にみる現疾患と既往歴



以前にアレルギー疾患があったと回答があった児童で、治療不要の診断があったのは、「食物アレルギー」が62.0%で最も多く、次いで「気管支喘息」46.6%、「じんましん」42.2%の順であった。

また、医師から治療不要の診断を受けていないのは、「口腔アレルギー症候群」が93.3%で最も多く、次いで「アナフィラキシー」68.2%、「アレルギー性鼻炎」61.9%の順であった。

過去のアレルギー疾患別の診断

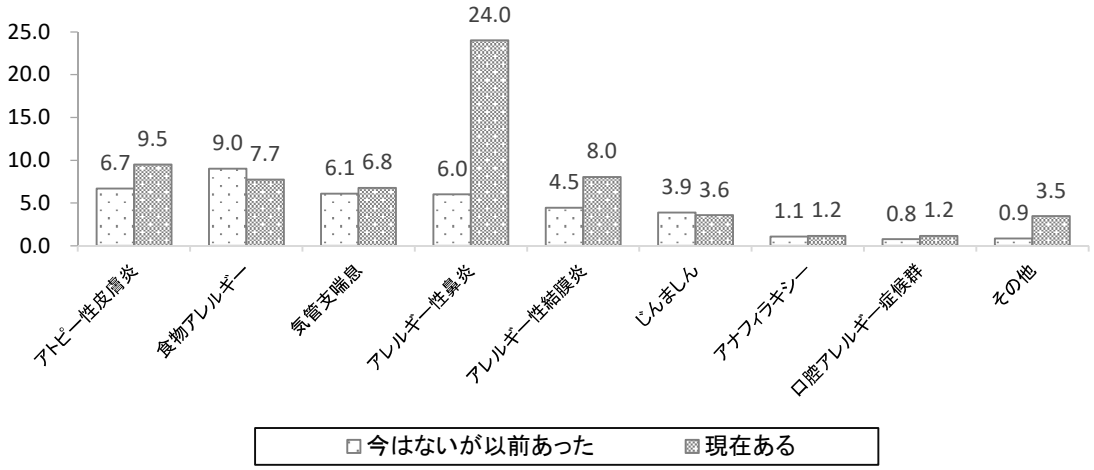


【中学生】

今はないが以前あったアレルギー疾患で回答が多かった「食物アレルギー」は9.0%だったが、現在疾患があると回答があった生徒は、7.7%だった。

現在アレルギー疾患があると回答が多かった「アレルギー生鼻炎」は24.0%で、今はないが以前あったと回答があった生徒は6.0%であった。また、「アトピー性結膜炎」は現在疾患があると回答があったのは8.0%で、今はないが以前あった生徒は4.5%であった。

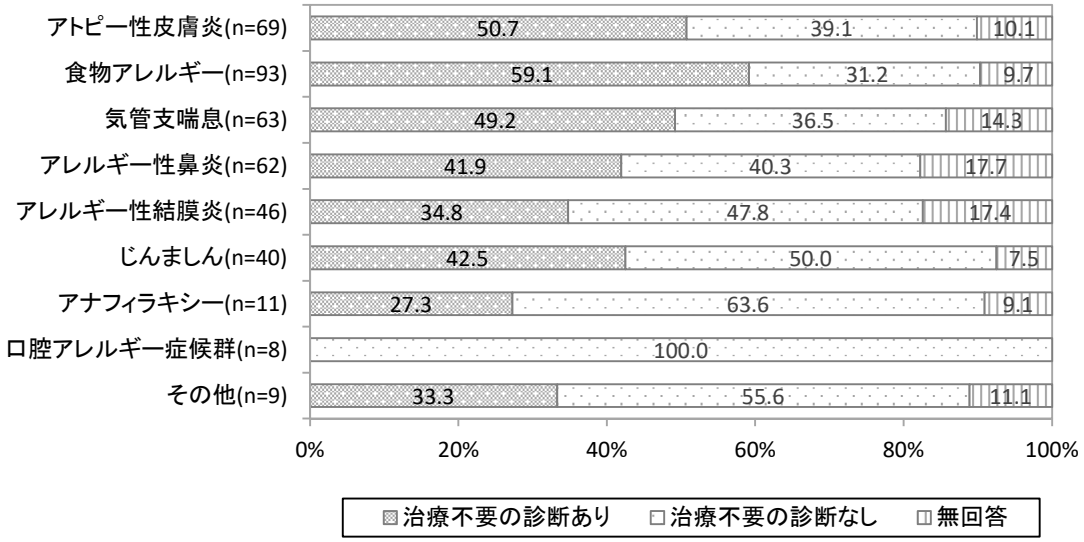
疾患別にみる現疾患と既往歴



以前にアレルギー疾患があったと回答があった生徒で、医師から治療不要の診断があったのは、「食物アレルギー」が59.1%で最も多く、次いで「アトピー性皮膚炎」50.7%、「気管支喘息」49.2%の順であった。

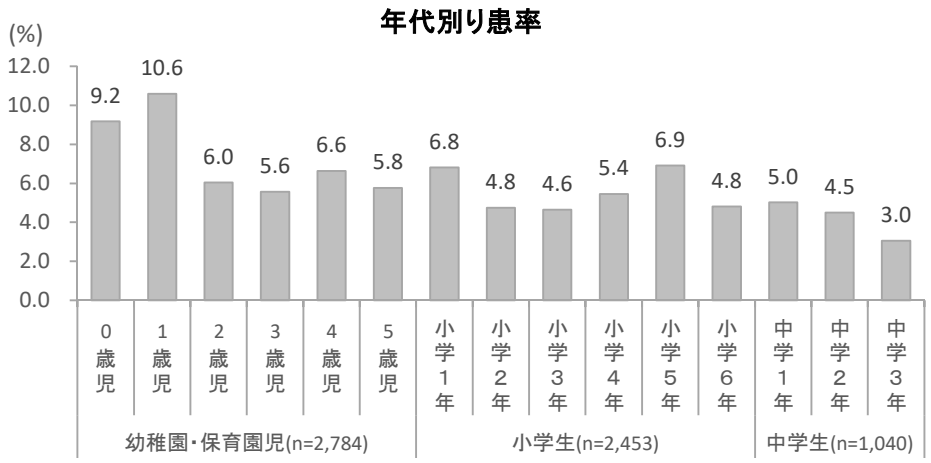
また、医師から治療不要の診断を受けていないのは、「口腔アレルギー症候群」が100%で最も多く、次いで「アナフィラキシー」63.6%、「じんましん」50.0%の順であった。

過去のアレルギー疾患別の診断



（５）食物アレルギー児の年代別り患状況

現在、食物アレルギーがあり医師の診断を受けていると回答があった児・児童生徒は、「1 歳児」の割合が 10.6%で最も多く、次いで「0 歳児」9.2%、「小学 5 年生（10 歳児）」6.9%、「小学 1 年生（6 歳児）」6.8%、「4 歳児」6.6%の順であった。



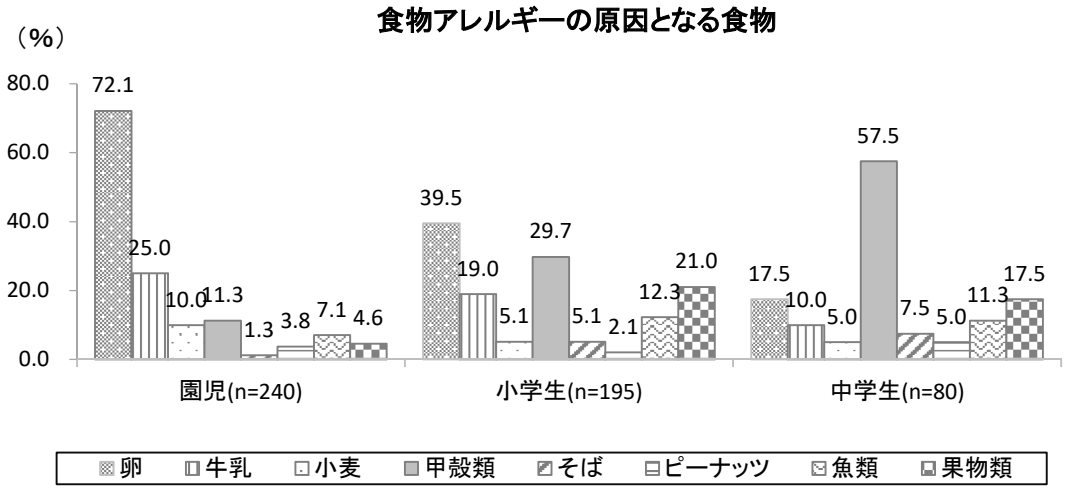
（６）食物アレルギーの原因食物

現在、食物アレルギーがあると回答があった児・児童生徒で、食物アレルギーの原因と思われる食物は、園児では「卵」72.1%、次いで「牛乳」25.0%、「甲殻類」11.3%の順であった。

小学生では、「卵」39.5%、次いで「甲殻類」29.7%、「果物類」21.0%の順であった。「果物類」で回答が多かった食物は「キウイフルーツ」、「メロン」、「すいか」の順であった。

中学生では、「甲殻類」57.5%、次いで「卵」と「果物類」が 17.5%、「魚類」11.3%であった。「果物類」で回答が多かった食物は「キウイフルーツ」、「すいか」と「桃」の順であった。

「卵」は、園児と小学生では原因食物として最も多い割合だったが、中学生になると大きく減っていた。

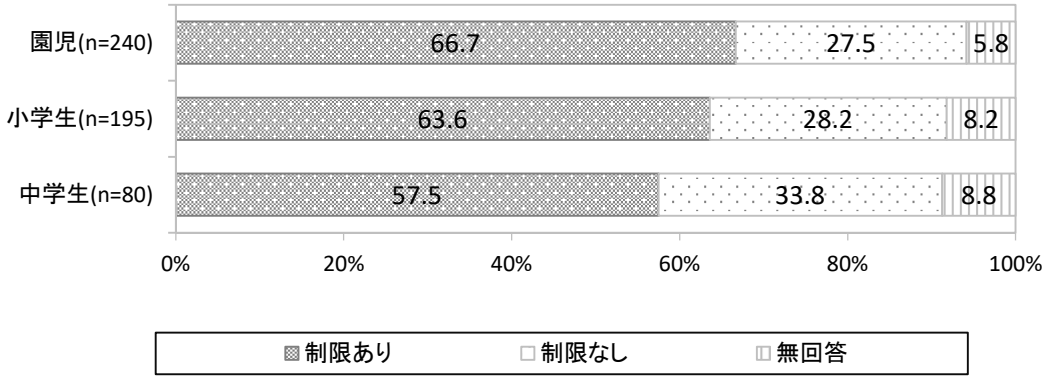


（７）食物アレルギーに対する食事制限

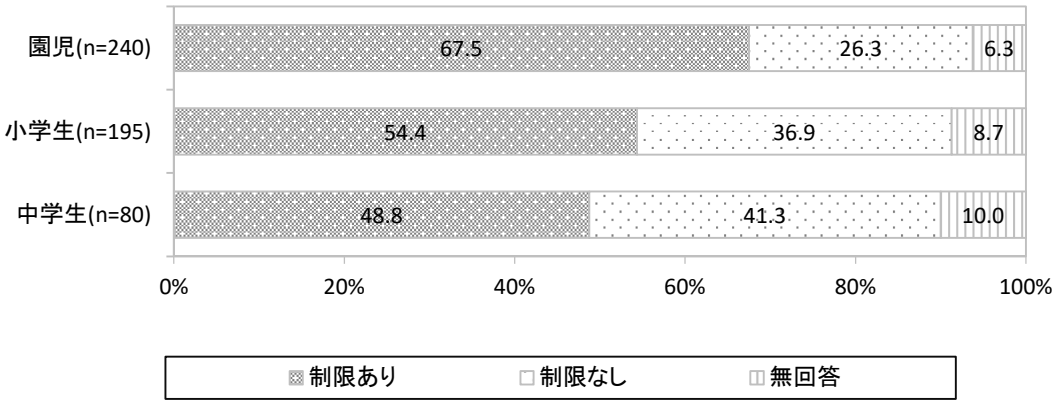
現在、食物アレルギーがあり、「家庭での食事制限がある」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児66.7%、小学生63.6%、中学生57.5%であった。

また、「園・学校での食事制限がある」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児67.5%、小学生54.4%、中学生48.8%であった。

家庭での食事制限の有無



園・学校での食事制限の有無



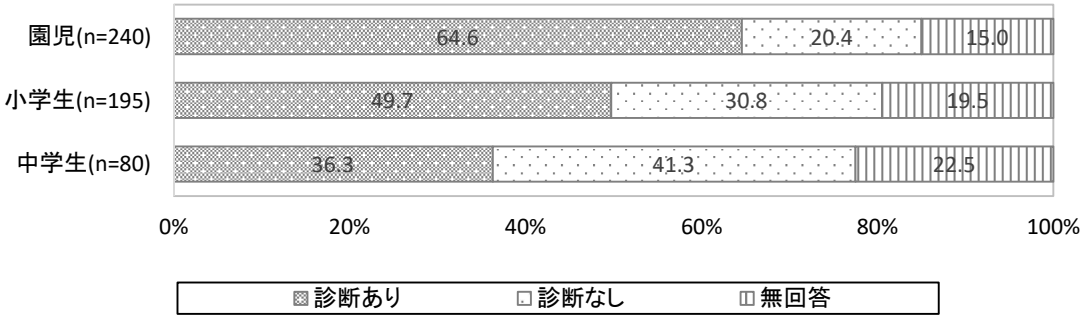
（８）食物アレルギーに対する食事制限への診断

現在、食物アレルギーがあり、「食事制限への医師の診断がある」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 64.6%、小学生 49.7%、中学生 36.3%であった。中学生では、医師の診断がない割合の方が多かった。

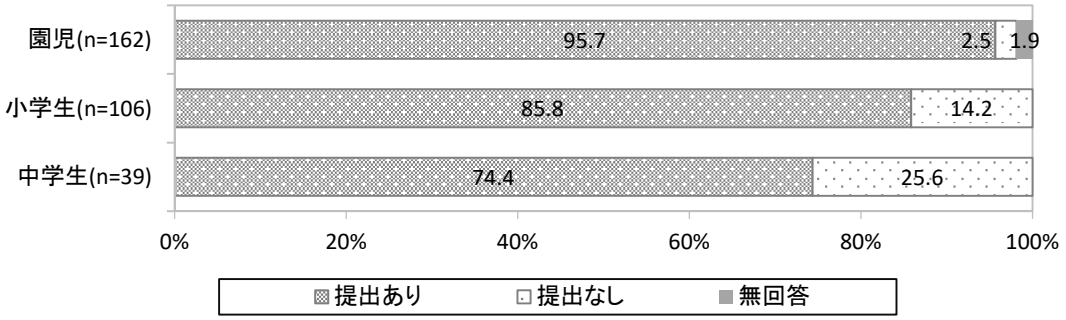
なお、食物アレルギーで園での食事制限があり、「除去を依頼する書類を園・学校に提出している」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 95.7%、小学生 85.8%、中学生 74.4%であった。

また、食物アレルギーで食事制限があり、「家庭での食事制限があるが、園・学校で食事制限がない理由」について、「園、学校では対応が困難」と回答があったのは、小学生で 3.6%あった。

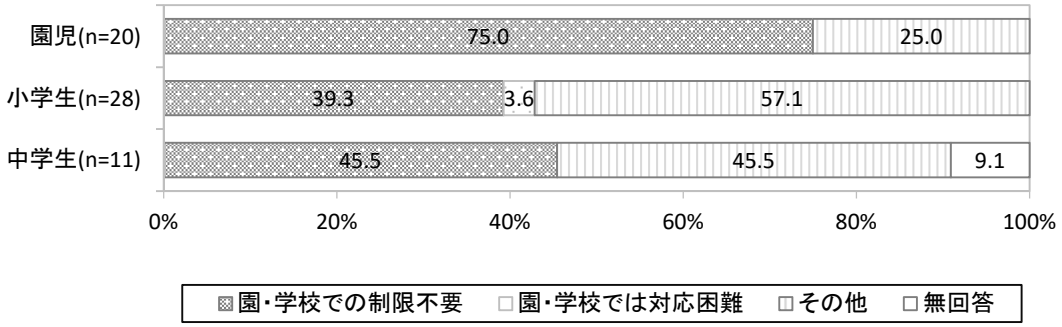
食事制限への医師の診断状況



園、学校への除去書類の提出状況

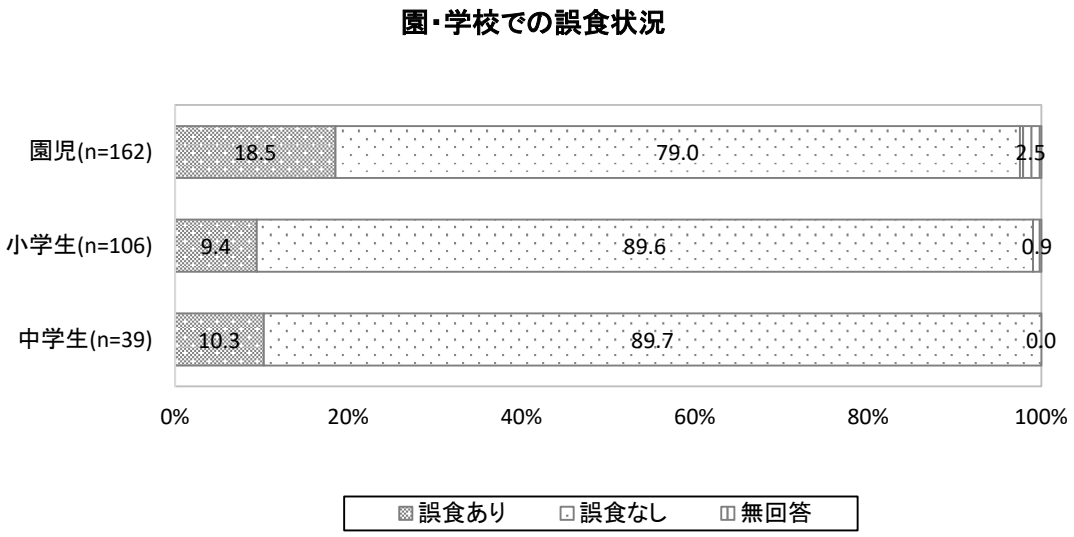


家庭での食事制限があり、園・学校での制限はない理由

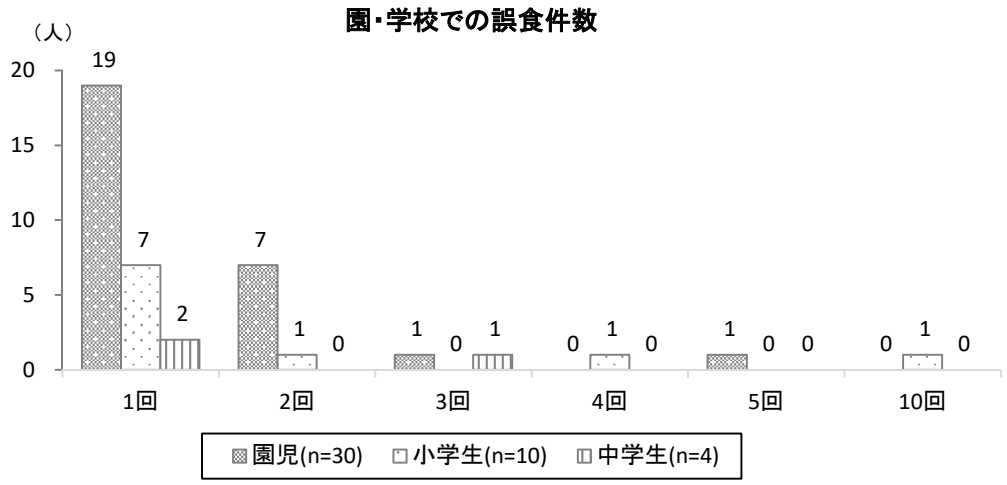


（９）食物アレルギーに対する誤食の状況

現在、食物アレルギーで園・学校で食事制限がある児・児童生徒のうち、「誤食があった」と回答があったのは、園児 18.5%、小学生 9.4%、中学生 10.3%であった。



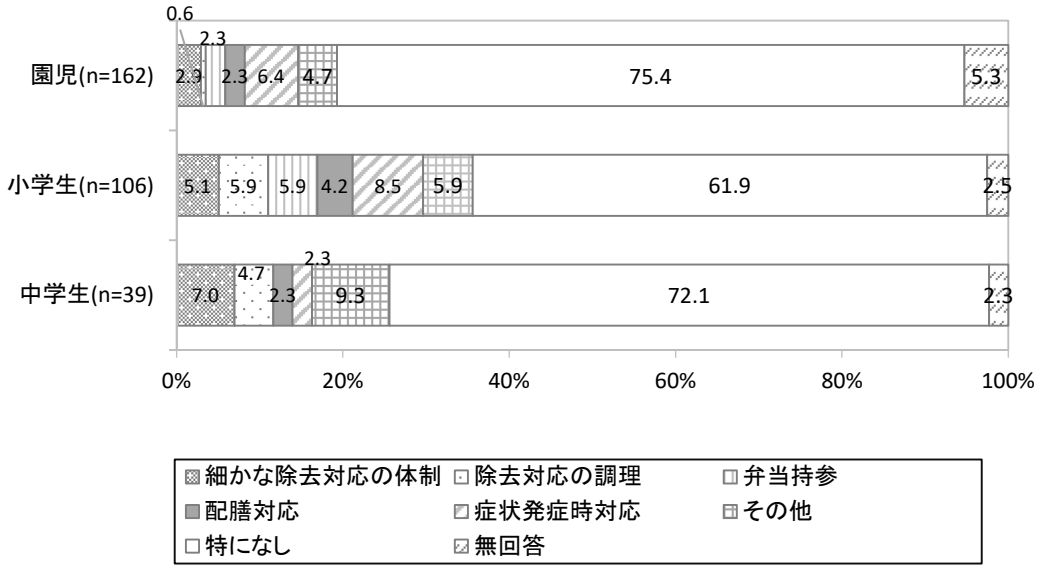
現在、食物アレルギーで食事制限があり、「園・学校で誤食があった」と回答があった児・児童生徒の誤食の回数は、どの年代でも「1 回」が多く、各年代で多かった誤食の発生件数は、園児で「5 回」が 1 件、小学生で「10 回」が 1 件、中学生で「3 回」が 1 件であった。



（１０）食物アレルギーに対する園・学校の対応

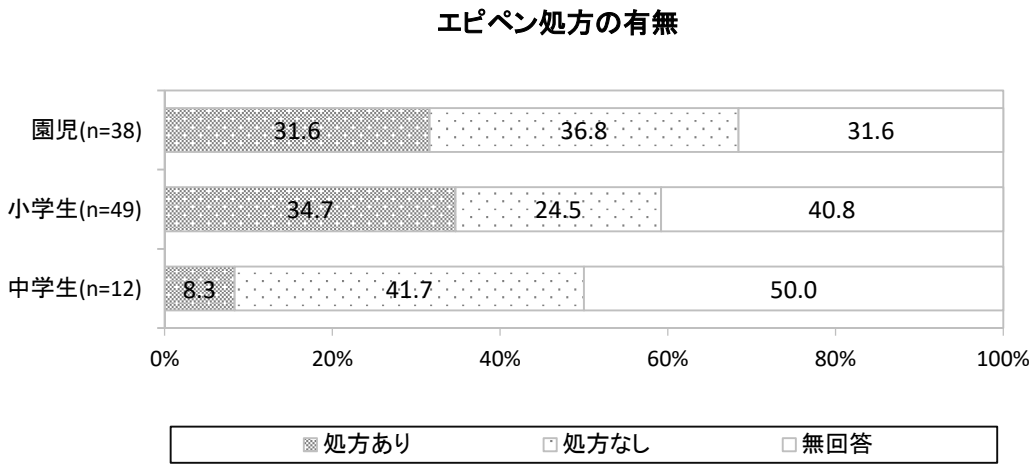
現在、食物アレルギーで食事制限があり、「園・学校の対応で不安や困っていること」で回答があったのは、「症状発症時の対応」が園児6.4%、小学生で8.5%、中学生では「細かな除去対応の体制がない」7.0%であった。

園・学校での対応で困っていること、心配なこと



（１１）エピペンの処方について

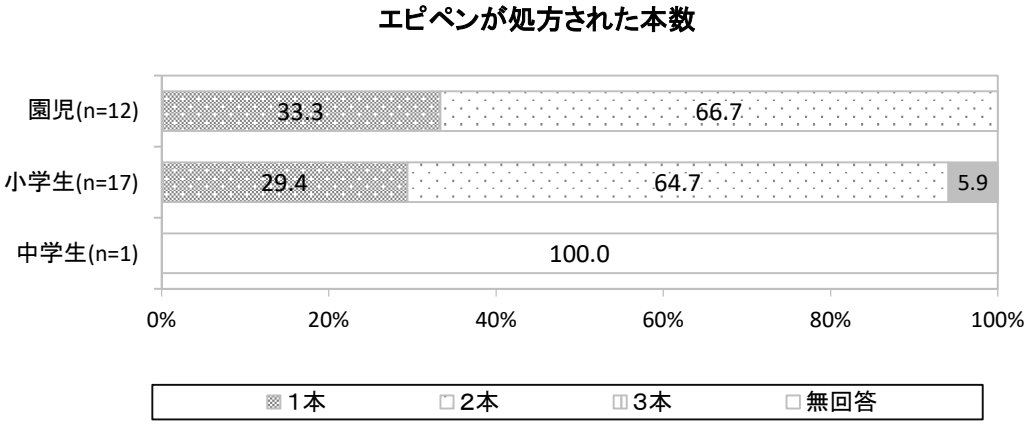
現在アナフィラキシーがあり、「エピペンを処方してもらっている」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 31.6%、小学生 34.7%、中学生 8.3%であった。



エピペンの処方があると回答のあった児・児童生徒で、「アナフィラキシーでエピペンを処方された本数」は、園児では「1 本」33.3%、「2 本」66.7%であった。「3 本」の処方はなかった。

小学生では、「1 本」29.4、「2 本」64.7%、「3 本」5.9%であった。

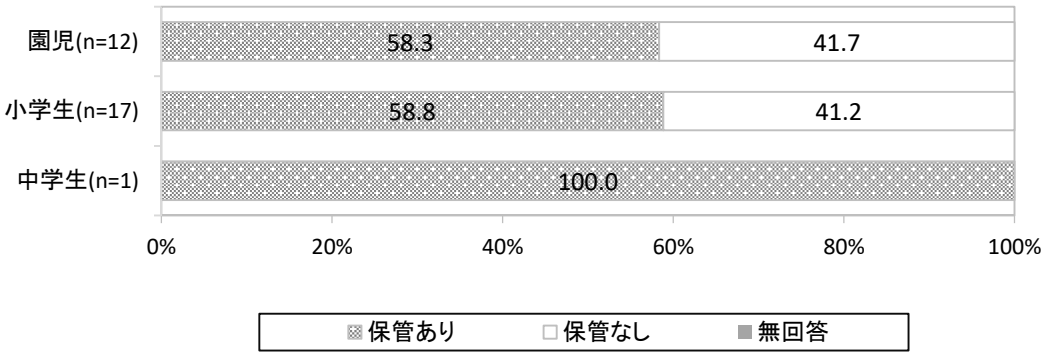
中学生では、処方をしてもらっている本数の回答がなかった。



（１２）エピペンの取扱いについて

アナフィラキシーでエピペンを処方してもらい、「園・学校でエピペンを保管してもらっている」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 58.3%、小学生 58.8%、中学生 100%であった。

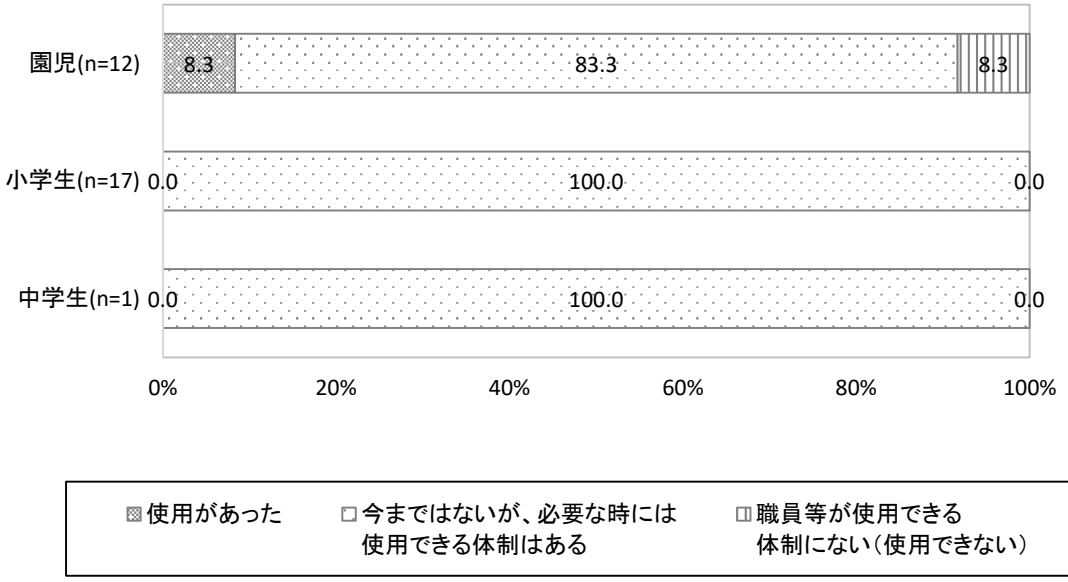
園、学校でのエピペンの保管状況



アナフィラキシーでエピペンの処方がある児・児童生徒の園や学校での使用状況については、「使用があった」と回答があったのは、園児のみ 8.3%であった。

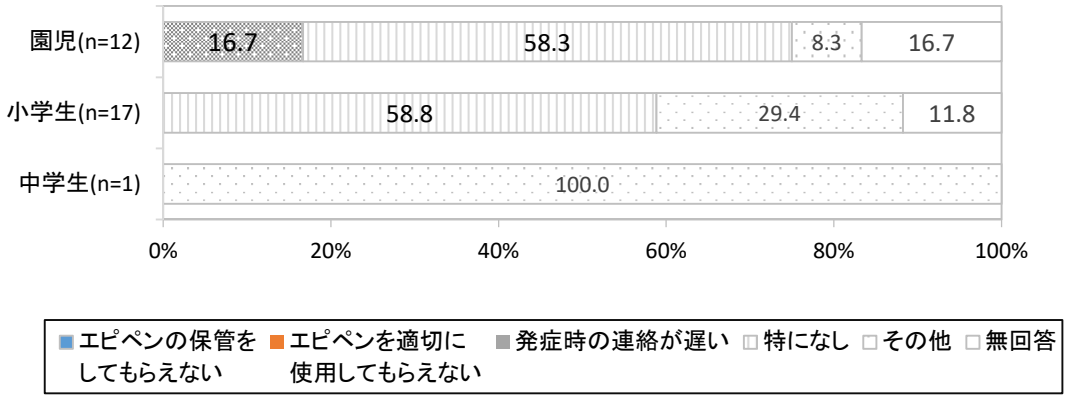
小学生と中学生では、「今まで使用はないが、必要な時には使用できる体制はある」と回答があった。また、「職員等が使用できる体制にない（使用ができない）」と回答があったのは、園児のみで、8.3%であった。

園・学校でのエピペン使用状況



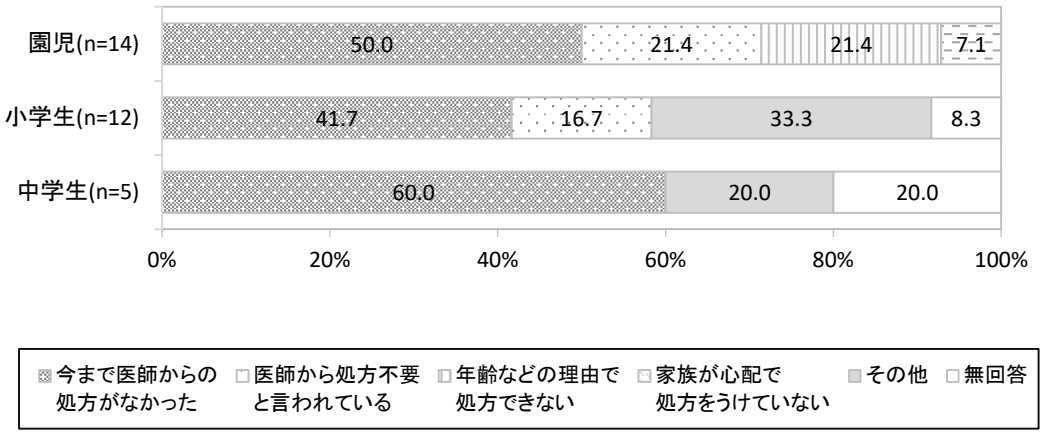
アナフィラキシーでエピペンの処方がある児・児童生徒で「園や学校の対応で心配すること、困ったこと」で「エピペンの保管をしてもらえない」と回答があったのは、園児 16.7%であった。
「その他」の回答では、園児で「毎日持ち帰る必要があり、忘れたりするのが不安」の回答があった。
小学生では、「先生がいない時間に周囲が気付いてくれるか心配」の回答があった。
また、中学生では、「先生方がエピペンの使い方を習得しているか不安」の回答があった。

エピペンの処方があり、園・学校の対応で困ること、心配なこと



アナフィラキシーでエピペンの処方がない理由で、「今まで医師からの処方がなかった」と回答があった児・児童生徒の割合は、園児 50.0%、小学生 41.7%、中学生 60.0%であった。
「医師からエピペン処方の必要がない」と言われたのは、園児 21.4%、小学生 16.7%であった。
また、「年齢などの理由で処方ができない」と回答があったのは、園児 21.4%であった。

エピペンの処方がない理由



（１３）保護者からの意見要望

【園】

○小学校に上がる際の給食に関する不安

・小学校入学になるとアレルギーのある子は弁当持参となるので、小学校でもアレルギー除去対応をしてほしい。

・園では給食の対応がていねいだが、小学校に入ると鶏卵アレルギーのみの対応。小学校でもこまかい対応を望む。

○アレルギーの診断や判断基準について

・アレルギー除去食の申請書について、毎回病院からもらう診断書にお金がかかるのが負担。

・医師の診断がないと食事制限をしてもらえなかった。お金もかかるし、医師の診断も血液検査についても柔軟な対応をしてほしい。

○職員の知識や認識について

・職員の意識が園によって違いすぎる。

○薬やエピペン等の保管について

・万が一のためにエピペンの保管を保育園でもしてほしい。

・症状が出た場合の頓服薬が処方されている場合は、園で預かりを実施し臨機応変に対応してほしい。

○園での対応について

・アレルギーの様な症状が少しでもおこったらすぐ連絡がほしい。

・連絡をこまめにもらえてうれしい。

○園での給食対応について

・全食アレルギー対応はできないか。

・楽しく友達と食べられるように席を配慮してほしい。

【小学校】

○給食等について

・アレルギーを持つ子が増えているので、すべての食材をアレルゲンフリーにしてほしい。

・代替食を用意してほしい。

○診断等について

・毎年、事務的に診断書をもらいに行かなくてはならず面倒。市町村によっては、診断書等の提出が不要のところもあり簡素化してほしい。

・医師の診断がないと牛乳除去にしてもらえず、診断を受ける為の検査が負担。

○学校生活に関することについて

・給食を残すことに対しての理解がほしい。

・早い段階で、本人が担任などに症状を申告できるように普段から声かけをしてほしい。

・ＰＭ２．５や黄砂の時期は配慮してほしい。

○教職員等の知識や認識について

・命にかかわることなので、きちんとした知識を持った人が対応すべき。

【中学校】

○学校生活について

・各学校にエアコンや空気清浄器を設置してほしい。

○給食について

・除去食までは要求しないが、原因食物が入っている場合は教えてほしい。

○その他

・学校の健康診断の項目にアレルギー検査も入れてほしい。

２　アレルギー疾患に関する施設調査

【保育所・幼稚園】

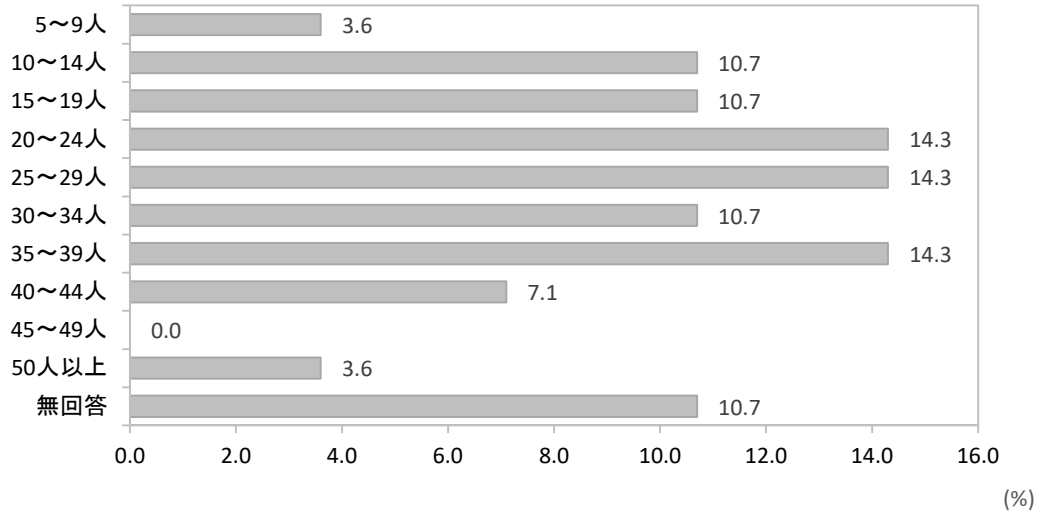
（１）保育職員の概数

園における職員数は、1 施設あたり「20～24 人」、「25～29 人」、「35～39 人」が 14.3%で最も多く、次いで「10～14 人」、「15～19 人」、「30～34 人」が 10.7%であった。「50 以上」の職員が在籍する施設もあった。

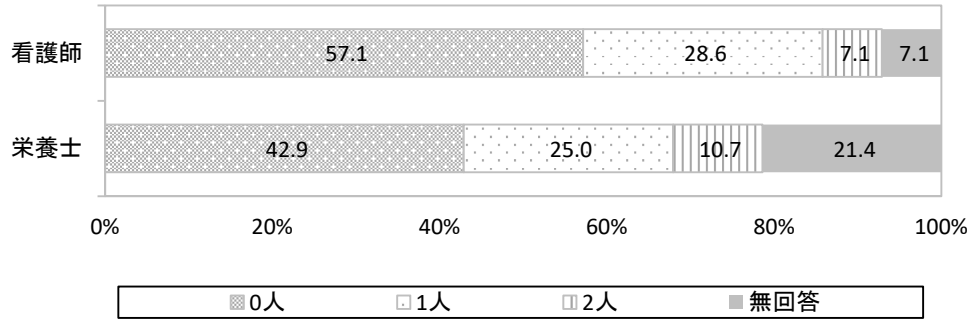
そのうち、「看護師」資格をもつ職員は、１施設あたり「1 人」が 28.6%、「2 人」7.1%であった。「看護師」が不在の施設は、57.1%であった。

また、「栄養士」資格をもつ職員は、１施設あたり「1 人」が 25.0%、「2 人」10.7%であった。「栄養士」が不在の施設は、42.9%であった。

１施設あたりの保育職員数

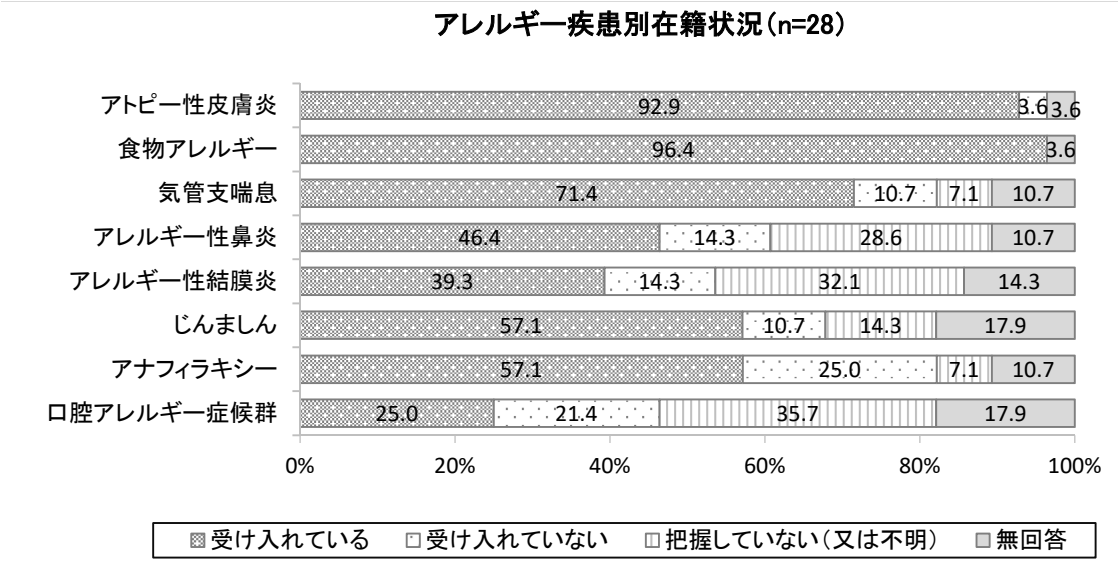


看護師、栄養士職員の在籍状況



（２）アレルギー疾患のある児が在籍する施設割合

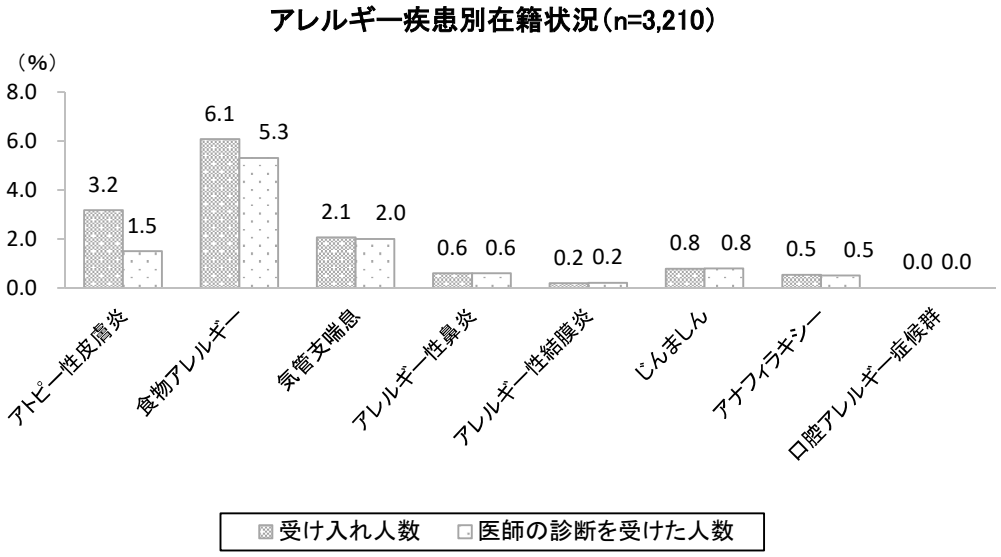
園におけるアレルギー疾患の受け入れ状況の割合は、「食物アレルギー」が 96.4%で最も多く、次いで「アトピー性皮膚炎」92.9%、「気管支喘息」71.4%の順であった。「アナフィラキシー」と「じんましん」は 57.1%であった。



（３）アレルギー疾患別の在籍状況

園に在籍する児のアレルギー疾患別の割合は、「食物アレルギー」が 6.1%で最も多く、次いで「アトピー性皮膚炎」3.2%、「気管支喘息」2.1%の順であった。

そのうち、医療機関で診断を受けている児の割合は、「気管支喘息」、「アレルギー性鼻炎」、「アレルギー性結膜炎」、「じんましん」、「アナフィラキシー」が受け入れ人数と同数で、全員が医療機関での診断を受けている。



（４）アレルギー疾患別の受け入れ状況と対応

①　アトピー性皮膚炎

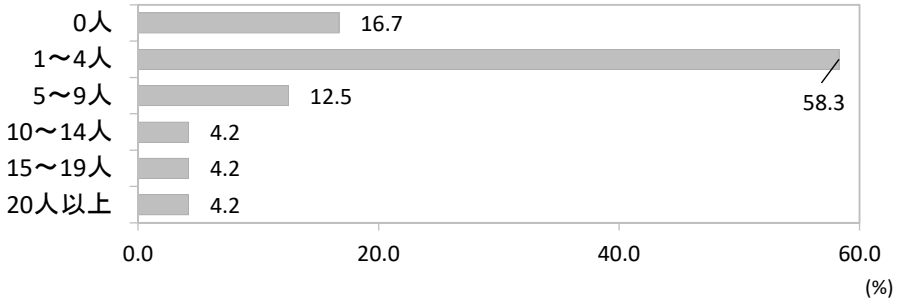
園におけるアトピー性皮膚炎のある児の在籍状況については、1 施設あたり「1～4 人」の受け入れが 58.3%で最も高く、次いで「0 人」16.7%、「5～9 人」12.5%の順であった。

1 施設あたり「20 人以上」を受け入れる園もあった。

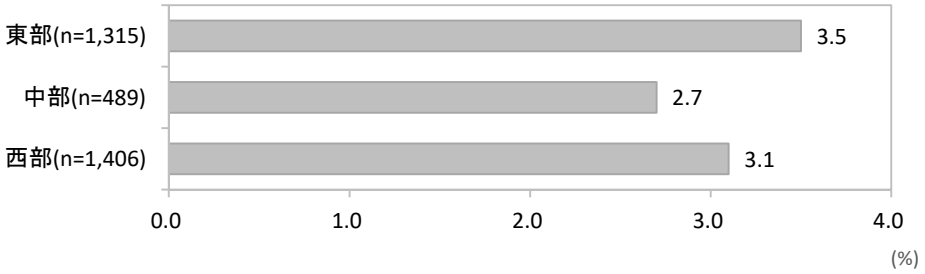
圏域別の受け入れ状況でみると、アトピー性皮膚炎児の占める割合は、「東部」は 3.5%（46 人）、「中部」2.7%（13 人）、「西部」3.1%（43 人）であった。

園で受け入れているアトピー性皮膚炎児のうち、医療機関での診断があった児の割合は、「中部」が 13 人で 100%であったが、「東部」は 15 人 32.6%、「西部」は 20 人 46.5%であり、「東部」と「西部」の園に在籍するアトピー性皮膚炎児の半数以上は、医療機関からの診断がない状況であった。

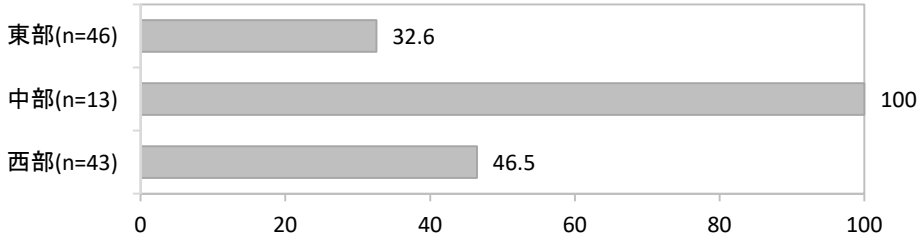
１施設あたりの在籍状況(n=24)



圏域別の受け入れ状況



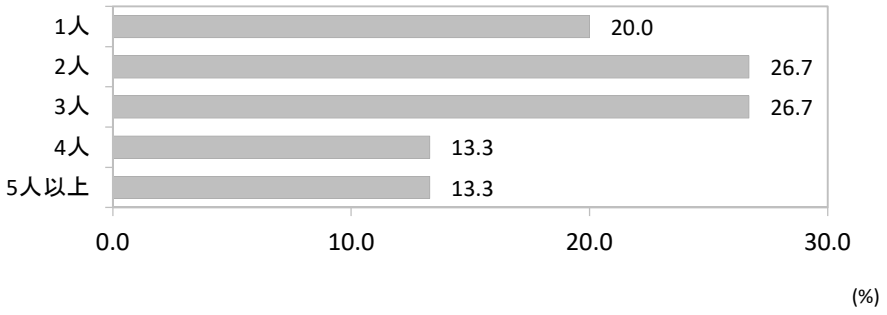
医療機関での診断



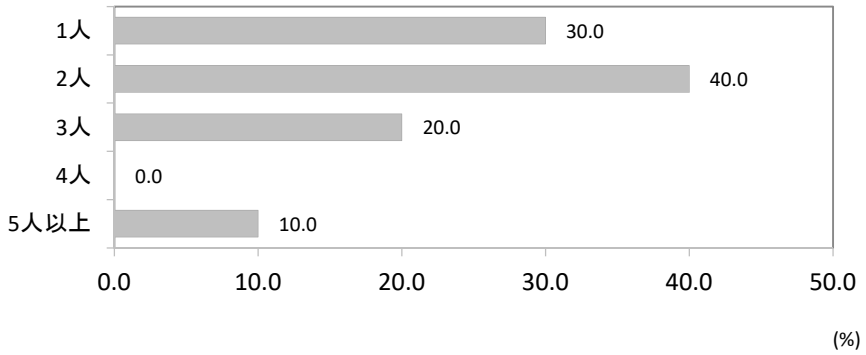
アトピー性皮膚炎で医療機関を受診している児の割合は、１施設あたり「2 人」と「3 人」が 26.7%で、「5 人以上」の施設もあった。

そのうち、園で塗り薬などの対応を行っている児は、１施設あたり「2 人」40%、「1 人」30.0%の順で、「5 人以上」の施設もあった。

１施設あたりの医療機関での診断(n=15)



園での薬対応(n=10)



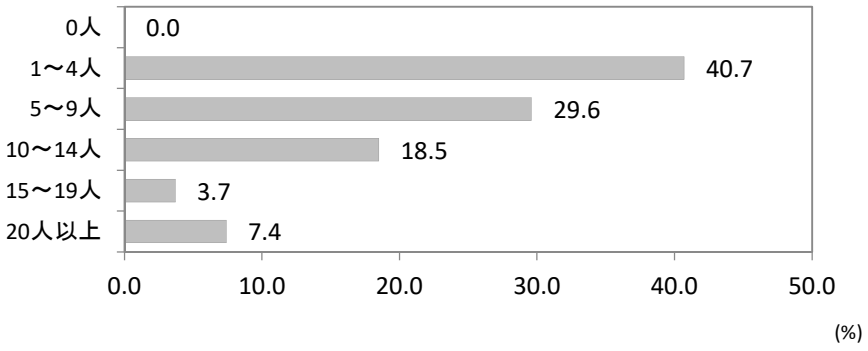
② 食物アレルギー

園における食物アレルギーのある児の在籍状況については、1 施設あたり「1～4 人」の受け入れが 40.7%で最も多く、次いで「5～9 人」29.6%、「10～14 人」18.5%の順であった。1 施設あたり「20 人以上」を受け入れる施設もあった。

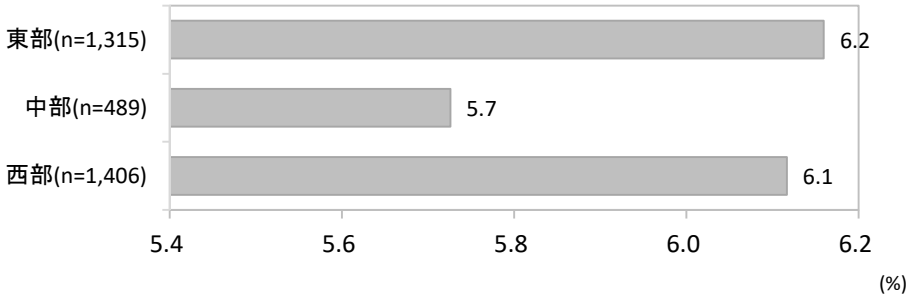
圏域別の受け入れ状況でみると、食物アレルギー児の占める割合は、「東部」は 6.2%（81 人）、「西部」は 6.1%（86 人）、「中部」5.7%（28 人）の順であった。

園で受け入れている食物アレルギー児のうち、医療機関での診断があった児の割合は、「東部」が 80 人で 98.8%、「西部」71 人 82.6%、「中部」18 人 64.3%の順で、「東部」では、園で受け入れる児と医療機関で診断を受けている児の差はほぼみられなかった。

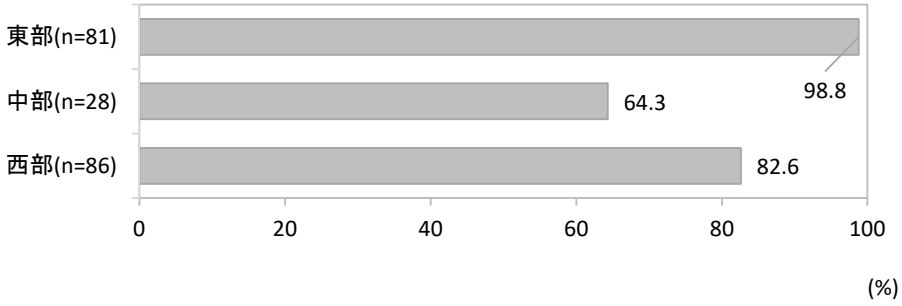
1施設あたりの在籍状況(n=27)



圏域別の受け入れ状況



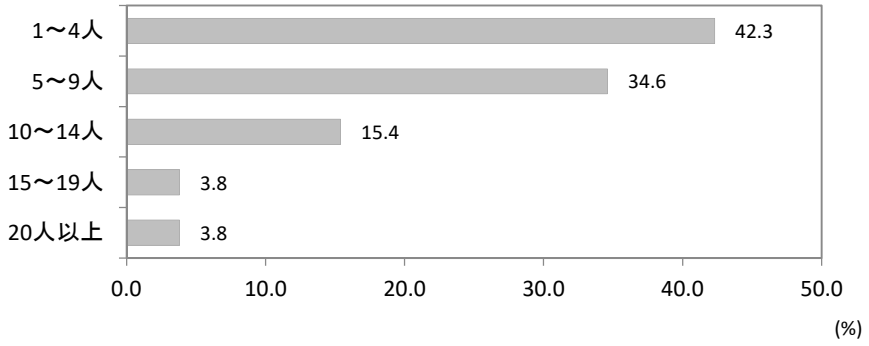
医療機関での診断



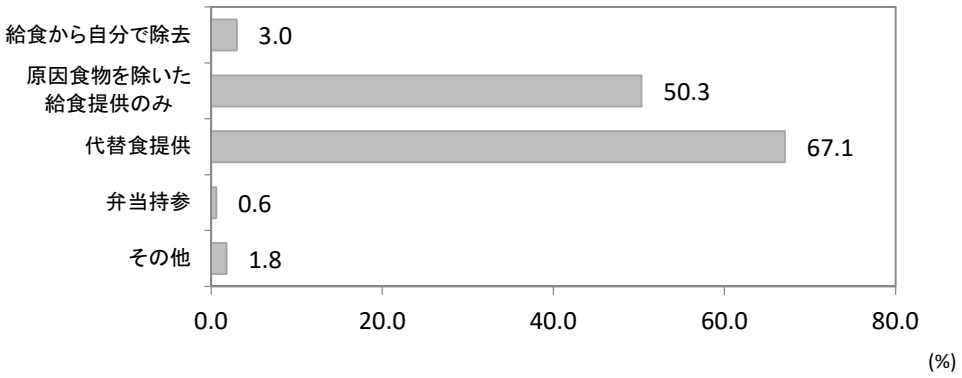
食物アレルギーがあり、医療機関の診断を受け食事制限食の対応をしている児の割合は、1施設あたり「1～4人」42.3%が最も多く、次いで「5～9人」34.6%、「10～14人以上」15.4%の順であった。「20人以上」を受け入れる園もあった。

また、食事制限による園での対応方法については、「代替食の提供」が 67.1%で最も多く、次いで、「原因食物を除いた給食の提供」50.3%の順であった。（複数回答）

制限食対応の園児数 (n=26)



園での食事制限の対応方法(n=167)

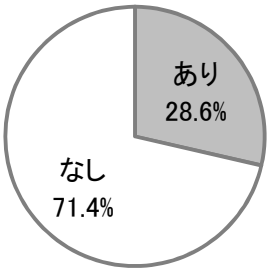


食物アレルギーで、1年間（H28.4.1 ～H29.3.31）に「園で誤食があった」と回答のあった割合は28.6%（8施設）であった。

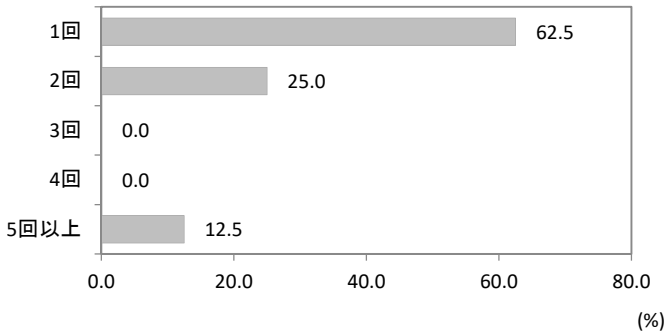
そのうち、誤食があった園の発生回数の割合は、1施設あたり「1回」が62.5%で最も多く、「2回」25.0%で、「5回以上」発生した園もあった。

また、誤食があった園のうち、症状が発現した回数の割合は、「0回」71.4%、「2回以上」、「1回」14.3%であった。

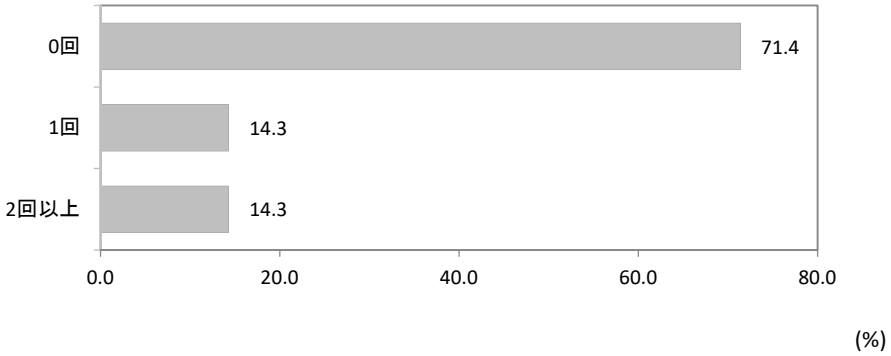
食物アレルギー誤食の有無(n=28)



誤食があった園の発生回数(n=8)



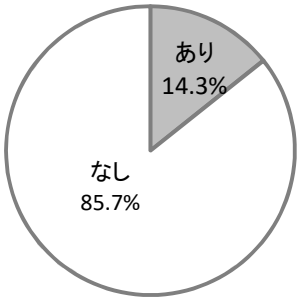
誤食により症状が発現した状況(n=7)



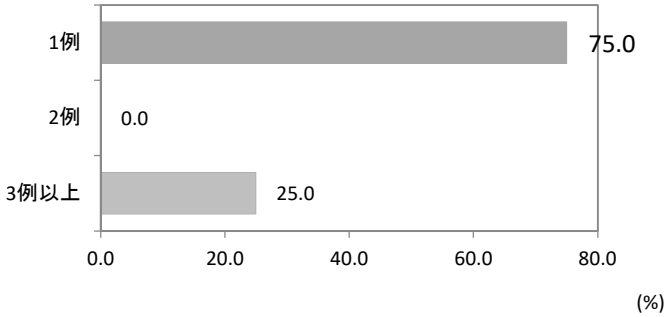
食物アレルギーで、1 年間（H28.4.1 ～H29.3.31）に、「園の食事で初めて食物アレルギーを発症があった」と回答のあった割合は 14.3%（4 施設）であった。

そのうち、１施設あたりの発症状況の割合は、「1 例」75.0%、「3 例」25.0%であった。

食物アレルギー初発症例の有無(n=28)



食物アレルギー初発症状況(n=4)

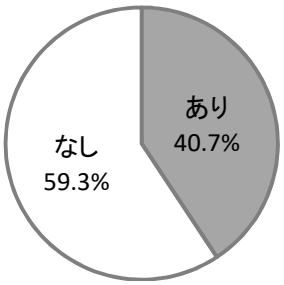


誤食事例にまでならなかったが、その危険性があったと思われる「ヒヤリハット事例があった時の報告体制がある」と回答のあった園の割合は 40.7%（11 施設）であった。

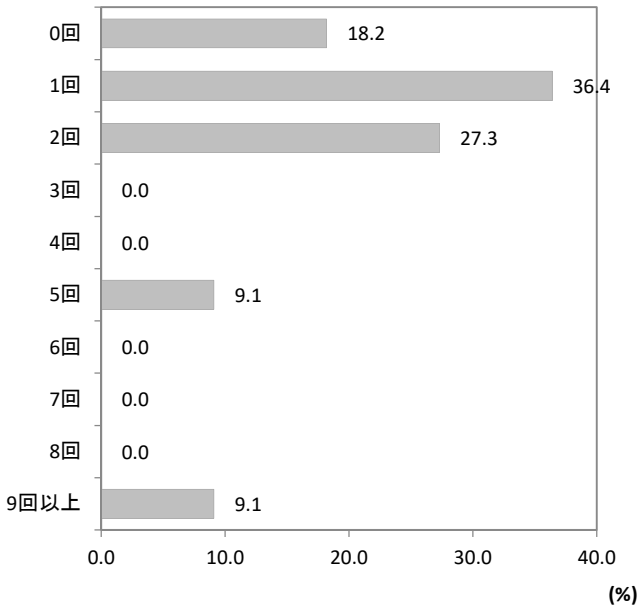
そのうち、１施設あたりの報告件数の割合は、「1 回」が 36.4%で、「2 回」27.3%、「0 回」18.2%であった。

最も多かった報告件数として、「9 回以上」の回答があった。

ヒヤリハット報告体制の有無
（ n=27）



「ヒヤリハット」報告数 (n=11)

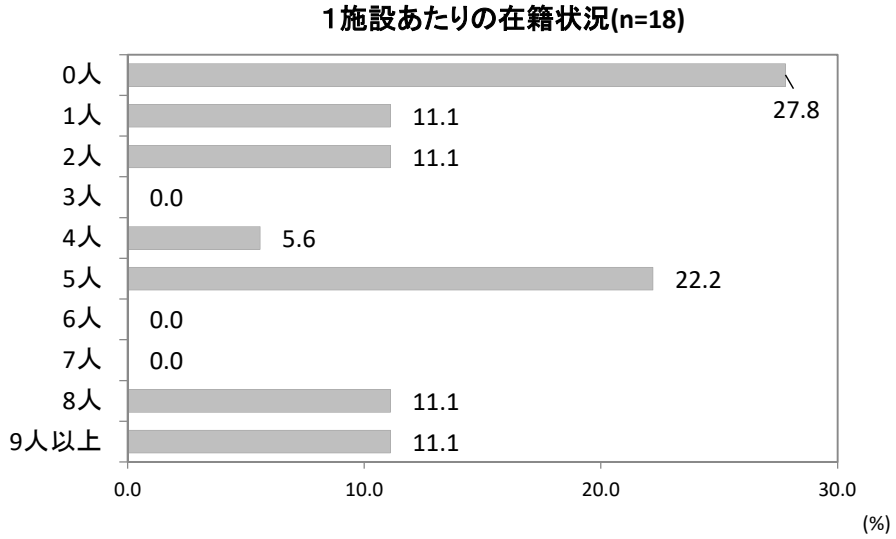


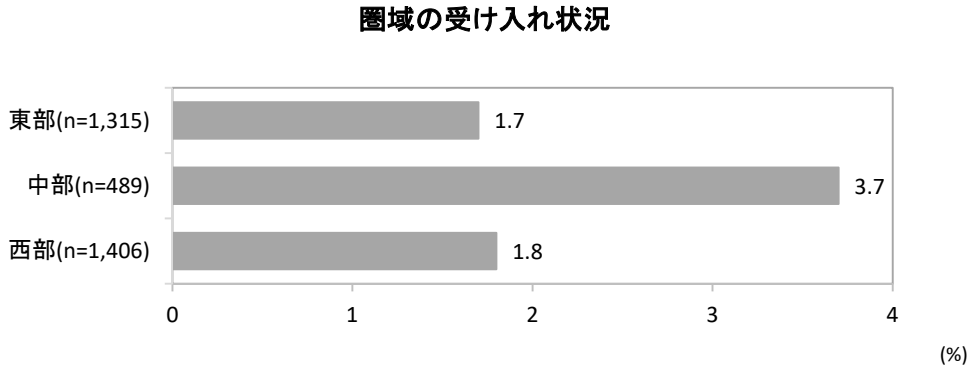
③ 気管支喘息

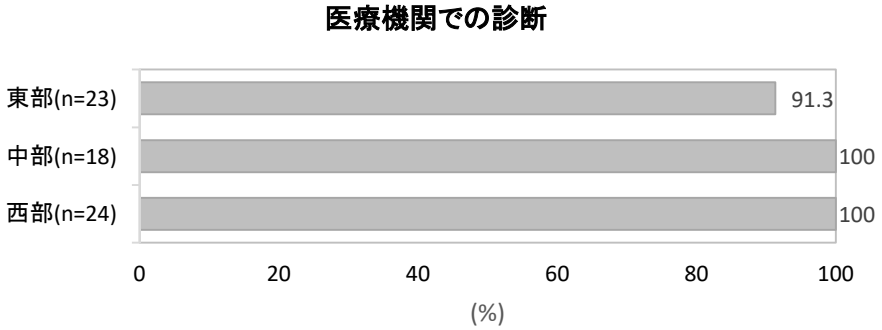
園における気管支喘息のある児の在籍状況については、1 施設あたり「5 人」の受け入れが 22.2%で最も多く、次いで「1 人」、「2 人」、「8 人」と「9 人以上」が何れも 11.1%であった。

圏域別の受け入れ状況でみると、気管喘息児の占める割合は、「中部」3.7%（18 人）、「西部」1.8%（25 人）、「東部」1.7%（23 人）の順であった。

園で受け入れている気管支喘息児のうち、医療機関での診断があった児の割合は、「中部」18 人、「西部」24 人で 100%、「東部」は 21 人 91.3%であり、どの地区でも園で受け入れる児と医療機関での診断を受けている児の差はほぼみられなかった。

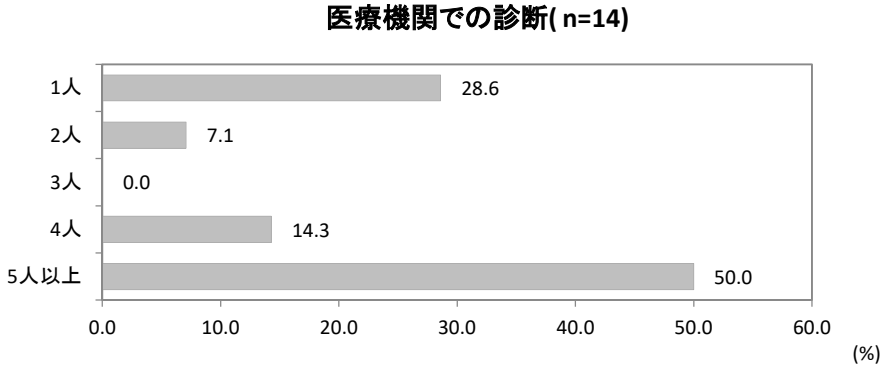


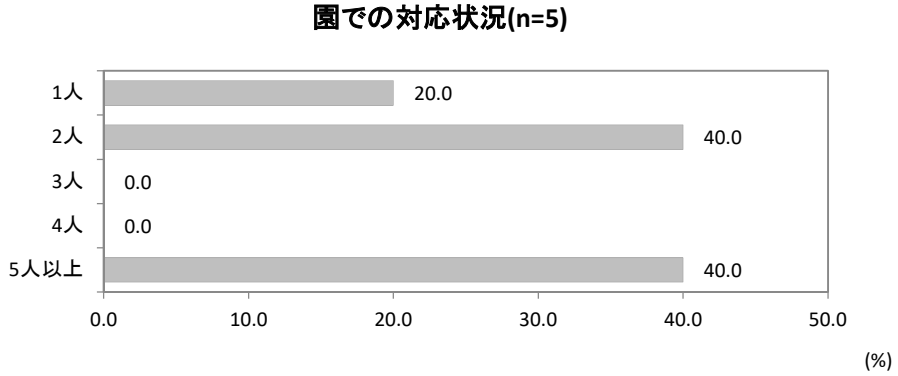




気管支喘息で医療機関を受診している児の割合は、1施設あたり「5人以上」が50.0%、「1人」28.6%、「4人」14.3%の順であった。

また、発作時に園で対応している児は、1施設あたり「5人以上」と「2人」が40.0%、「1人」20.0%であった。



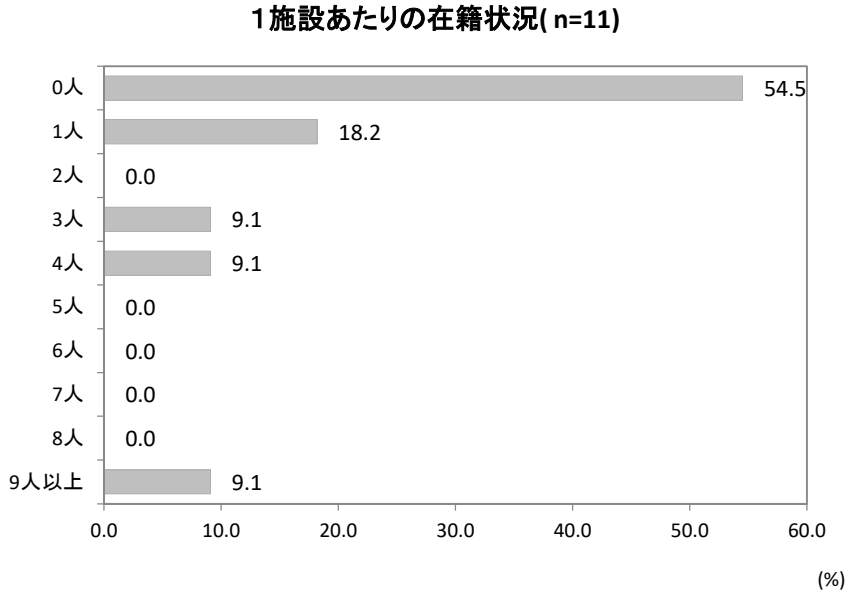


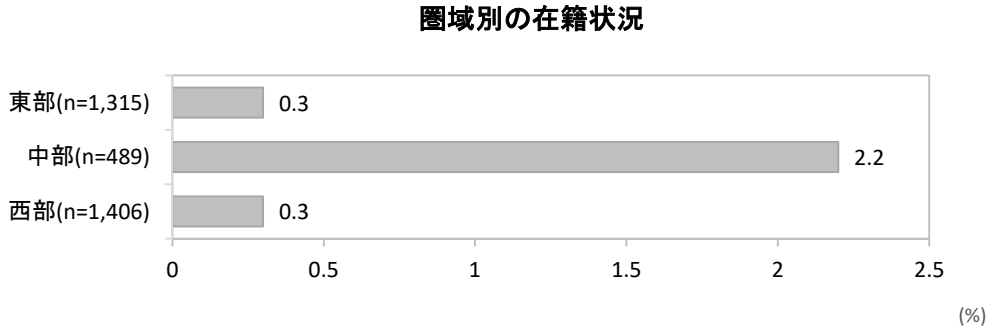
④ アレルギー性鼻炎

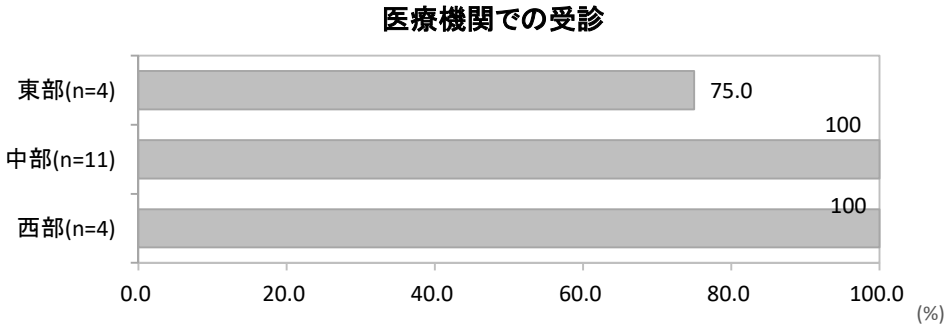
園におけるアレルギー性鼻炎のある児の在籍状況については、1 施設あたり「1 人」の受け入れが 18.2%で最も多く、次いで「3 人」、「4 人」、「9 人以上」が何れも 9.1%であった。

圏域別の受け入れ状況でみると、アレルギー性鼻炎児の占める割合は「中部」2.2%（11 人）、「東部」と「西部」がともに 0.3%（4 人）であった。

園で受け入れているアトピー性鼻炎のうち、医療機関での診断があった児の割合は、「中部」11 人、「西部」は 4 人で全員が医療機関での診断を受けており、「東部」は 3 人で 75.0%であった。



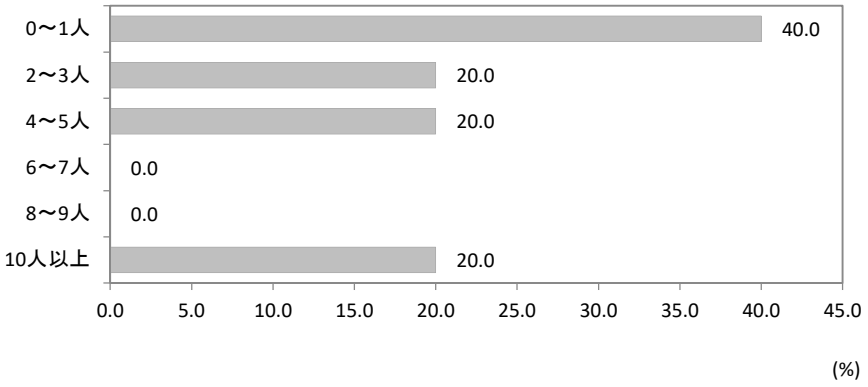




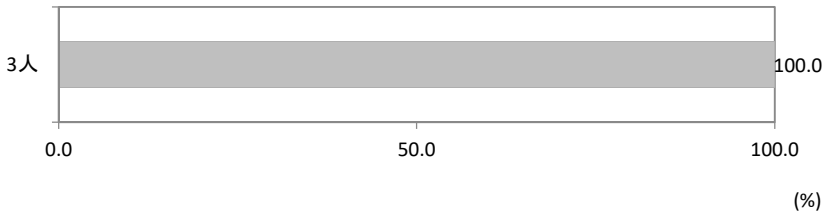
アレルギー性鼻炎で医療機関を受診している児の割合は、１施設あたり「0～1 人」が 40.0%、「2～3 人」、「4～5 人」、「10 人以上」が 20.0%であった。

また、季節の外出制限など、施設で対応している児は「3 人」で、他は無回答であった。

医療機関での診断(n=5)



園での対応状況(n=1)



⑤　アレルギー性結膜炎

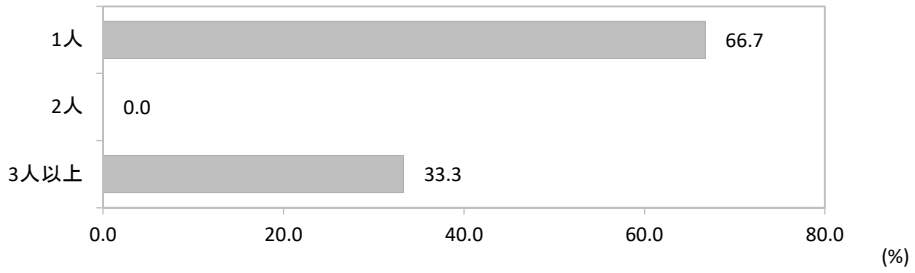
園におけるアレルギー性結膜炎のある児の在籍状況については、1 施設あたり「1 人」の受け入れが 66.7%で、「3 人以上」33.3%であった。

圏域別の受け入れ状況でみると、アレルギー性鼻炎児の占める割合は、「中部」0.4%（2 人）、「東部」0.3%（4 人）、「西部」はアレルギー性結膜炎児が在籍する園はなかった。

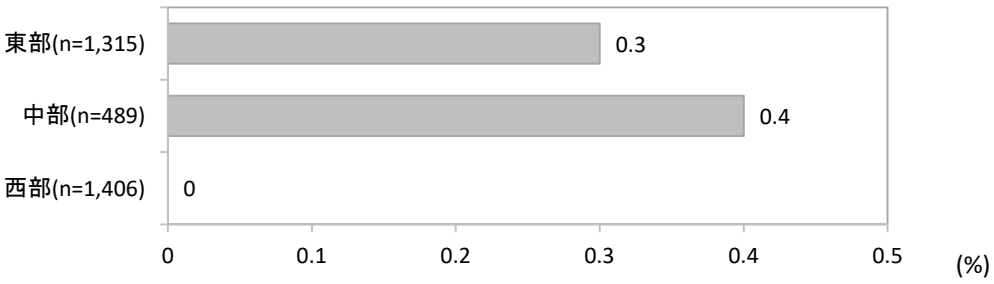
園で受け入れているアレルギー性鼻炎のうち、医療機関での診断があった児の割合は、「東部」4 人、「中部」2 人で 100%であった。

また、医療機関を受診している児の割合は、1 施設あたり「1 人」66.7%、「4 人以上」33.3%であった。季節の外出制限など、施設で対応している児はいなかった。

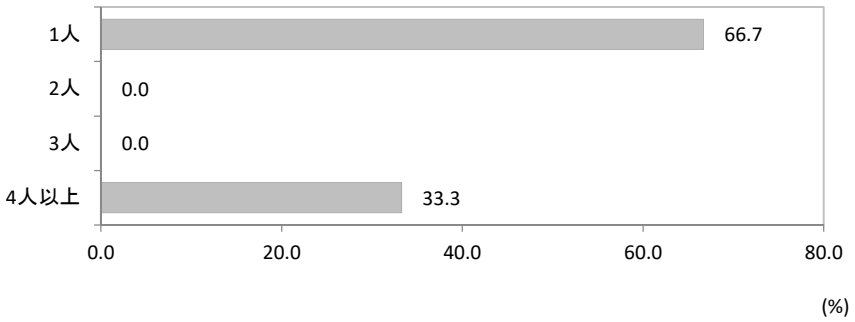
1施設あたりの在籍状況(n=3)



圏域別の受け入れ状況



医療機関での診断(n=3)



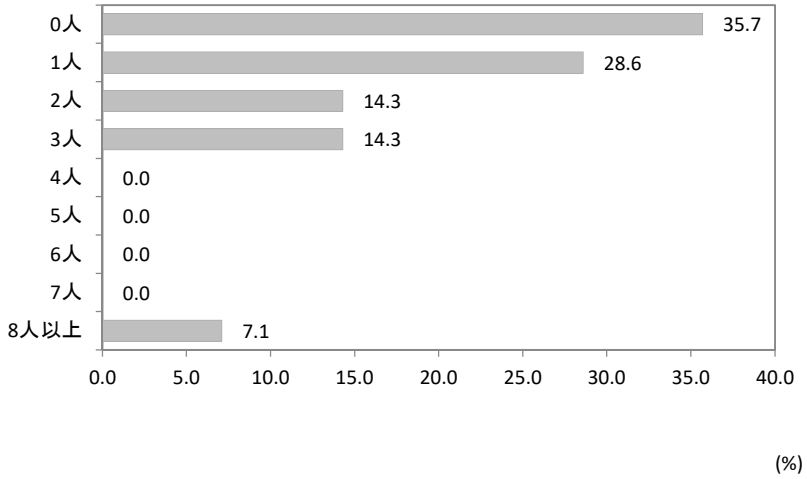
⑥　じんましん

園におけるじんましんのある児の在籍状況については、1 施設あたり「1 人」の受け入れが 28.6%で、次いで「2 人」、「3 人」14.3%であった。

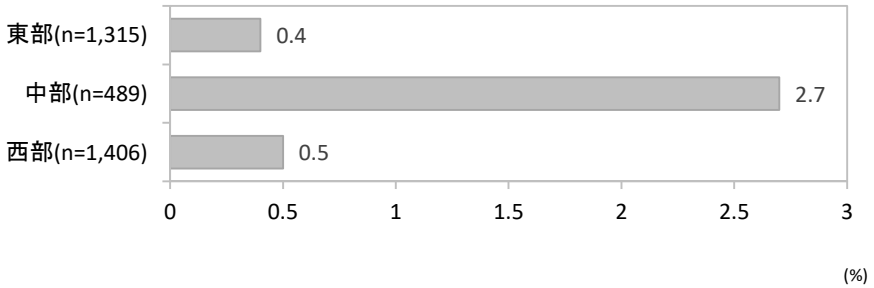
圏域別の受け入れ状況でみると、じんましん児の占める割合は、「中部」2.7%（13 人）、「西部」0.5%（7 人）、「東部」0.4%（5 人）の順であった。

どの圏域でも、園で受け入れているじんましん児の全員が医療機関での診断を受けている。

1施設あたりの在籍状況(n=14)



圏域別受け入れ状況

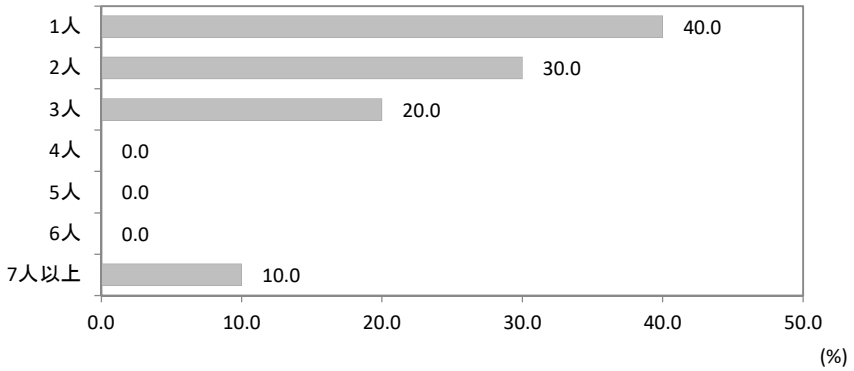


じんましんで医療機関を受診している児の割合は、１施設あたり「1 人」が 40.0%、次いで「2 人」30.0%、「3 人」20.0%の順で、「7 人以上」の児を受け入れる施設もあった。

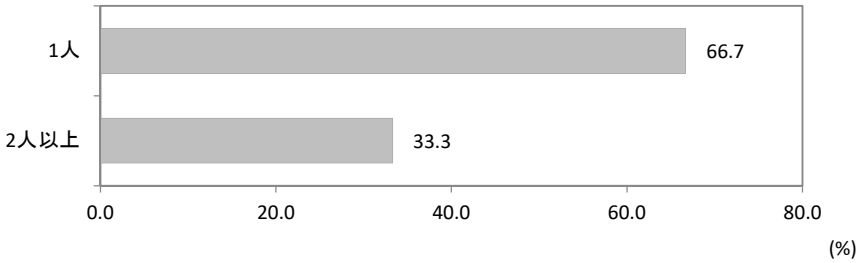
じんましんのある児の在籍状況については、1 施設あたり「1 人」が 66.7%、「2 人以上」33.3%であった。

緊急時の飲み薬を処方されている児は、無回答を除き「1 人」が 75.0 %、「2 人以上」25.0%であった。

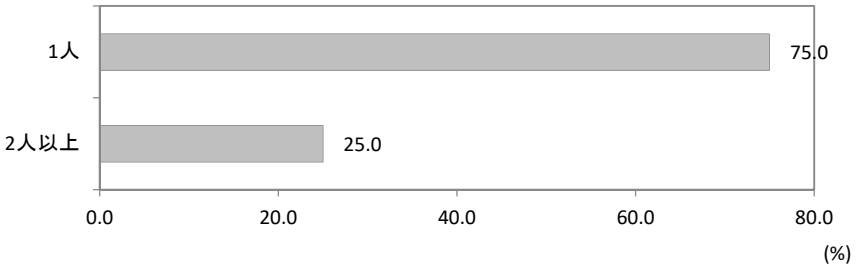
医療機関での診断(n=10)



食物アレルギーによるじんましん児(n=6)



緊急時の飲み薬の処方の状況(n=4)



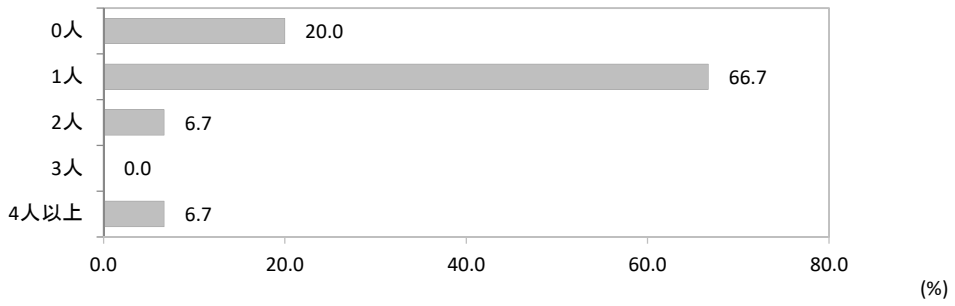
⑦ アナフィラキシー

園におけるアナフィラキシーのある児の在籍状況については、1 施設あたり「1 人」の受け入れが 66.7%で最も多く、次いで「2 人」6.7%、「4 人以上」6.7%であった。

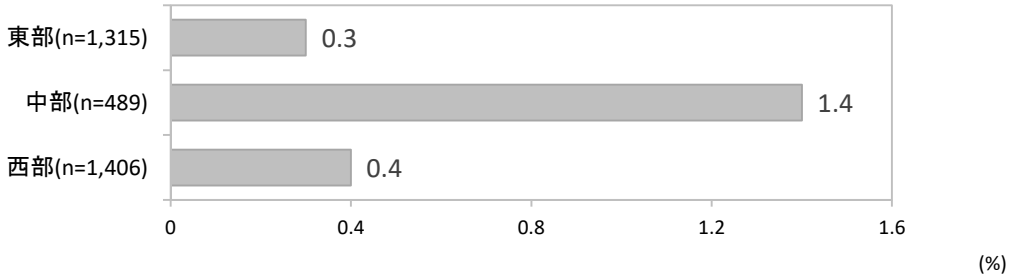
圏域別の受け入れ状況でみると、アナフィラキシー児の占める割合は、「中部」1.4%（7 人）、「西部」0.4%（6 人）、「東部」0.3%（4 人）の順であった。どの圏域でも、受け入れるアナフィラキシー児の全員が医療機関での診断を受けていた。

園で受け入れているアナフィラキシー児のうち、医療機関を受診している児は、1 施設あたり「1 人」が 84.6%、次いで「2 人」と「4 人以上」7.7%であった。

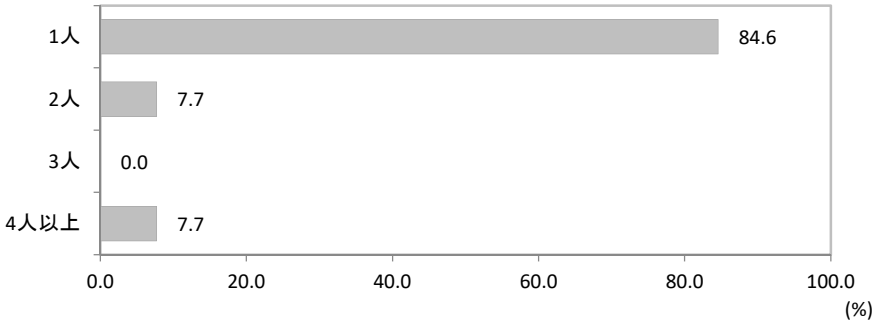
1施設あたりの在籍状況(n=15)



圏域別の受け入れ状況



医療機関での診断(n=13)



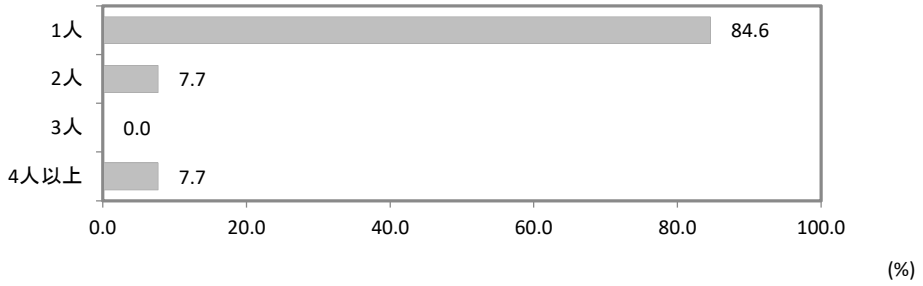
食物アレルギーによるアナフィラキシーのある児は、１施設あたり「1 人」が 84.6%、「2 人」と「4 人」7.7%であった。

緊急時の飲み薬を処方されている児は、無回答を除き、1 施設あたり「1 人」が 88.9%、「2 人以上」11.1%であった。

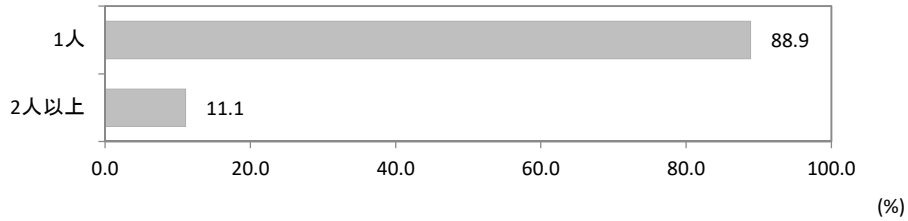
エピペンの処方があった児は、無回答を除き、1 施設あたり「1 人」90.0%であった。

また、保育施設で緊急時対応マニュアルなどがあり、園で対応している児は、無回答を除き、１施設あたり「1 人」が 90.9 %、「2 人以上」9.1%であった。

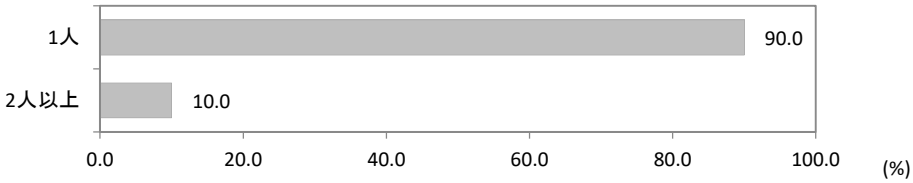
食物アレルギーによるアナフィラキシー児(n=13)



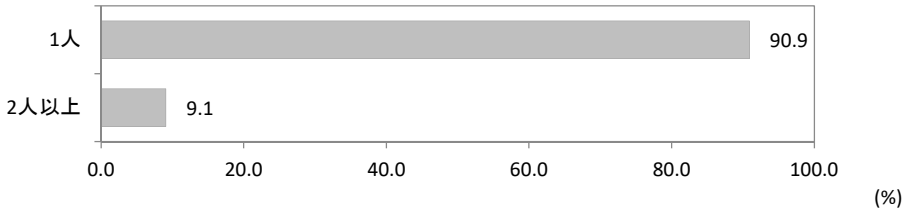
緊急時の飲み薬の処方状況(n=9)



エピペンの処方状況(n=10)



緊急時マニュアルなどで対応している数（ n=11）



⑧　口腔アレルギー症候群

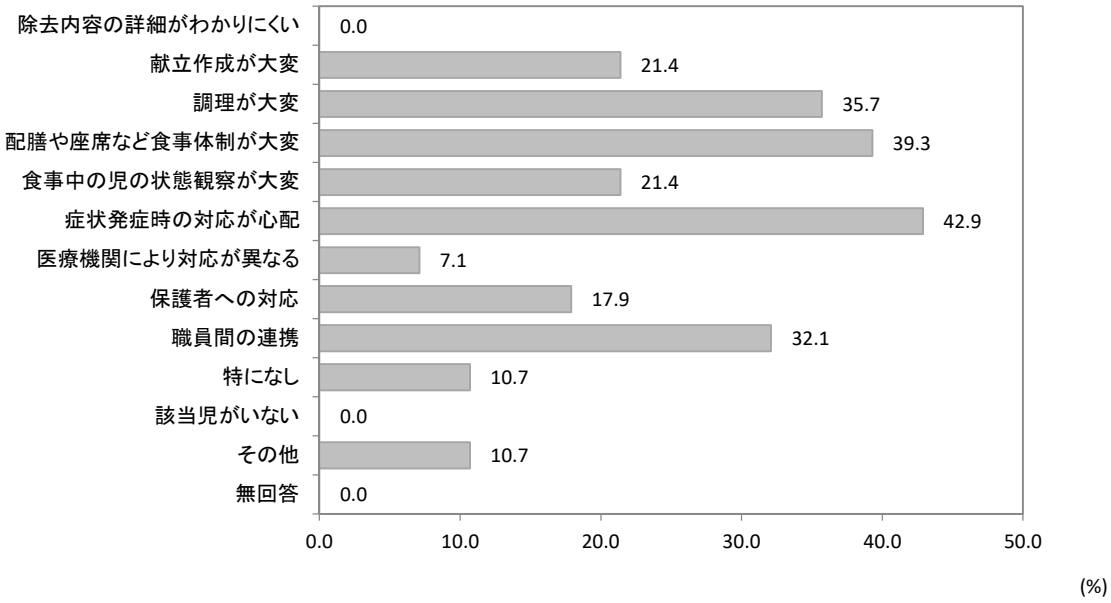
園における口腔アレルギー症候群のある児の在籍状況については、調査時点の全ての園で受け入れている児はいなかった。

（５）食物アレルギー、アナフィラキシーの対応で困ったこと

「食物アレルギー」と「アナフィラキシー」がある児の対応で園が困っていることでは、「症状発症時の対応が心配」が 42.9%、次いで「配膳や座席など食事体制が大変」39.3%、「調理が大変」35.7%の順であった。「保護者への対応」についても 17.9%の回答があった。

食物アレルギー、アナフィラキシー児の対応で困ったこと(n=28)

※複数回答あり



（６）施設からの要望

〇補助金等について

・代替食、食器（アレルギー児用）、人件費等の補助金があれば助かる。

・調理担当者の定数に、アレルギー対応加算として、職員の人数を増やしてほしい。
また、保育士にも同等の加配があるとよい。

〇講演会等について

・エピペン等の講習会などを開催してほしい。

〇その他

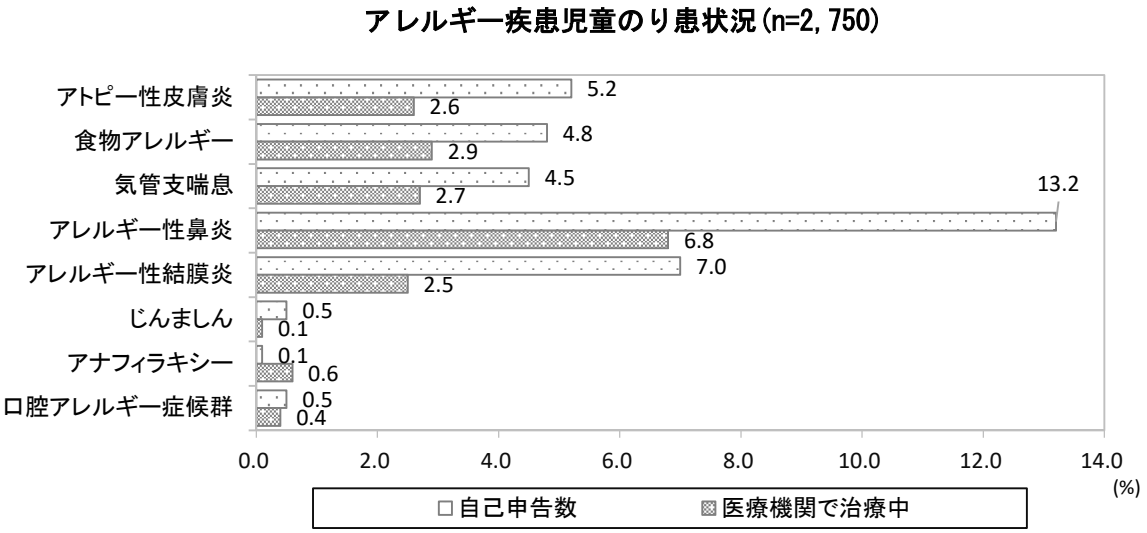
・医師によって対応が異なる。

【小学校】

（１）アレルギー疾患のある児童が在籍する施設割合

健康調査などによる自己申告でアレルギー疾患があると回答があった児童は、「アレルギー性鼻炎」が13.2%、次いで「アレルギー性結膜炎」7.0%、「アトピー性皮膚炎」5.2%の順であった。

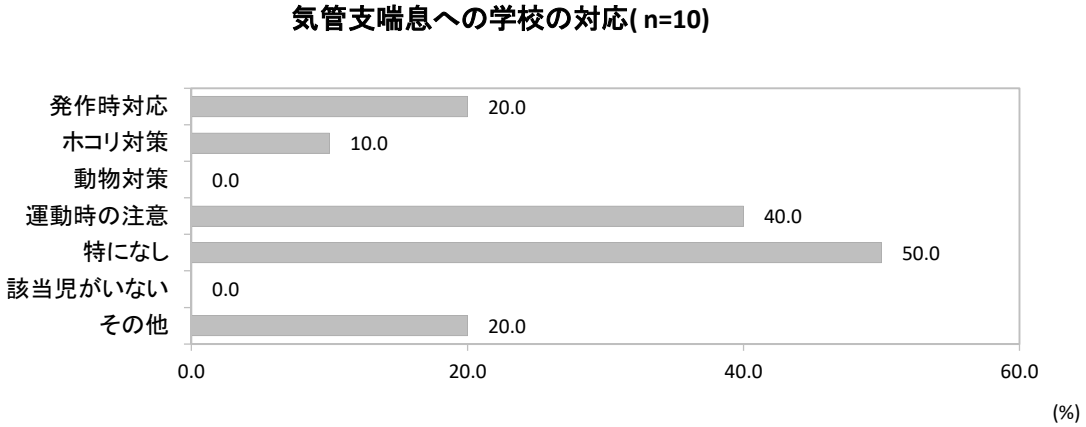
医療機関で治療中や管理指導中と回答があった児童は、「アレルギー性鼻炎」6.8%、次いで「食物アレルギー」2.9%、「気管支喘息」2.7%、「アトピー性皮膚炎」2.6%、「アレルギー性結膜炎」2.5%の順であった。「アナフィラキシー」は0.6%であった。いずれも「自己申告」と「治療中」の乖離が大きかった。



（２）気管支喘息のある児童への学校の対応について

気管支喘息のある児童への学校の対応については、「運動時の注意」が 40.0%、次いで「発作時対応」20.0%、「ホコリ対策」10.0%の順であった。(複数回答)

また、「その他」の対応では、「職員間での情報共有」、「宿泊学習等での服薬確認」、「PM2.5における屋外活動」について回答があった。



（３）食物アレルギーに対する誤食の状況

食物アレルギーで、1 年間（H28.4.1 ～H29.3.31）に「学校で誤食があった」と回答があった割合は 20.0%（2 校）であった。

そのうち、誤食があった学校の発生回数は、１校あたり「1 回」だった。

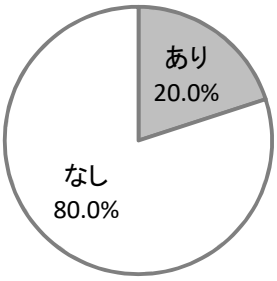
また、誤食があった学校で症状が発現した回数は、「1 回以上」と「0 回」に分かれた。

食物アレルギーで、1 年間（H28.4.1 ～H39.3.31）に、「学校の食事で初めて食物アレルギーを発症した」と回答があった割合は 20.0%（2 校）であった。

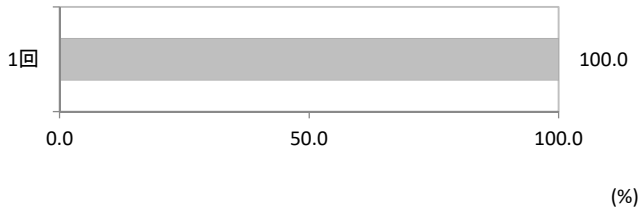
そのうち、１校あたりの発症状況は、「1 例」と「2 例以上」に分かれた。

なお、誤食事例にまでならなかったが、その危険性があったと思われる「ヒヤリハット事例があった」と回答があった学校はなかった。

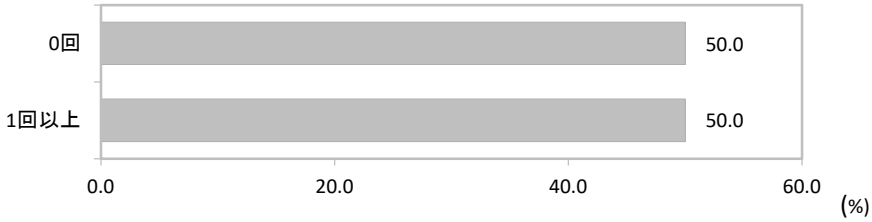
食物アレルギー誤食の有無(n=10)



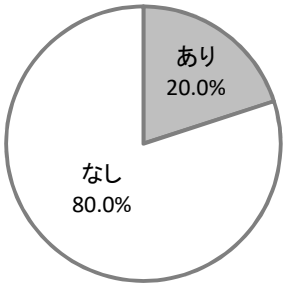
誤食があった学校の発生回数(n=2)



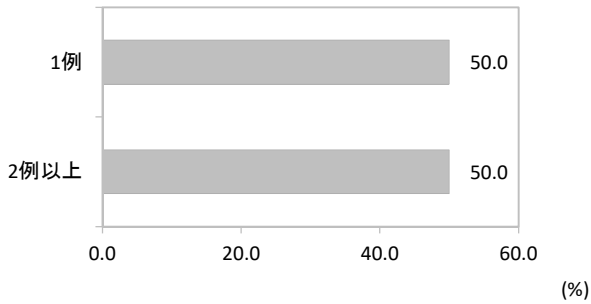
誤食により症状が発現した状況(n=2)



食物アレルギー初発症例の有無 (n=10)



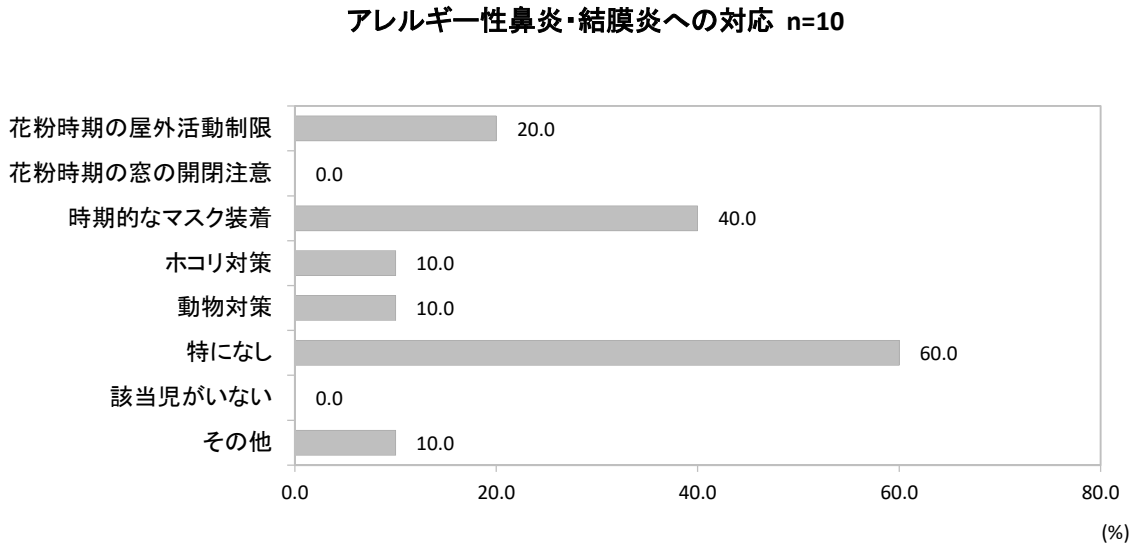
食物アレルギー初発症状況(n=2)



（４）アレルギー性鼻炎・結膜炎への学校の対応について

「アレルギー性鼻炎」と「アレルギー性結膜炎」のある児童への学校での対応については、「時期的なマスク装着」が 40.0%、次いで「花粉時期の屋外活動制限」20.0%、「ホコリ対策」と「動物対策」10.0%の順であった。（複数回答）

また、「その他」では、「校医からの助言を保護者・児童へ情報提供する」と回答があった。



（５）学校からの要望

○情報提供について

・各学校で作成を任されている「薬品使用申請書・承諾書」や「個別の対応マニュアル」について、元となるデータの提供をしていただけると大変ありがたい。

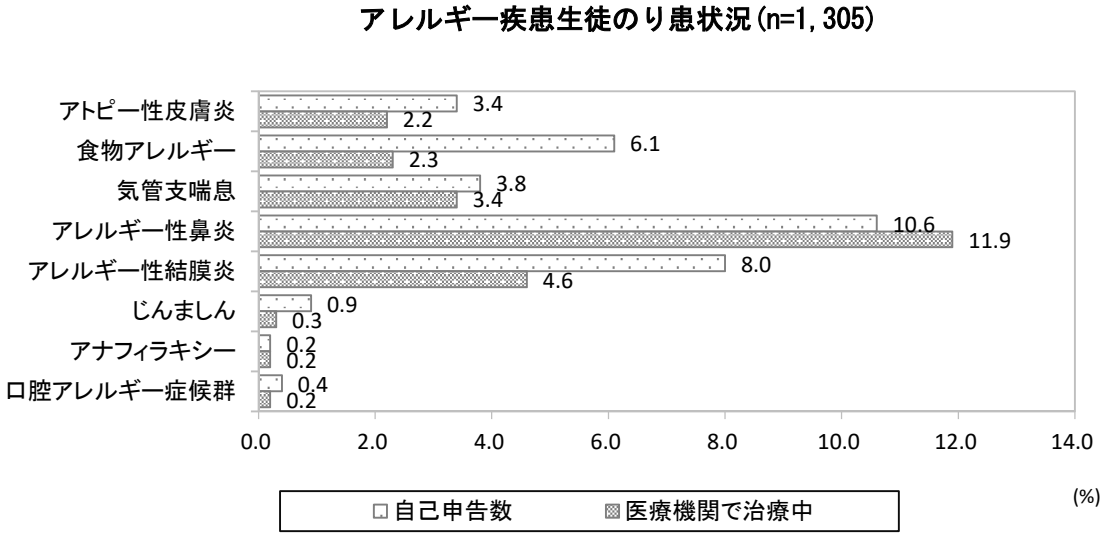
・アレルギー対応マニュアルについて、様式 6, 7 と「学校生活管理指導表」の扱いについて明記してほしい。

【中学校】

（１）アレルギー疾患のある生徒が在籍する施設割合

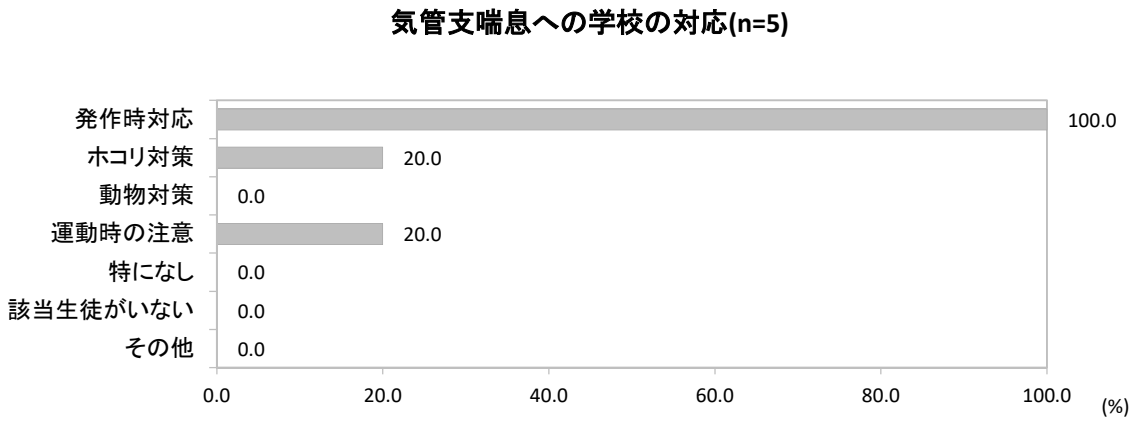
健康調査などによる自己申告でアレルギー疾患があると回答があったのは、「アレルギー性鼻炎」が10.6%、次いで「アレルギー性結膜炎」8.0%、「食物アレルギー」6.1%の順であった。

医療機関で治療中や管理指導中と回答があったのは、「アレルギー性鼻炎」が11.9%、次いで「アレルギー性結膜炎」4.6%、「気管支喘息」3.4%、「食物アレルギー」2.3%、「アトピー性皮膚炎」2.2%、の順であった。「アナフィラキシー」は0.2%であった。



（２）気管支喘息のある生徒への学校の対応について

気管支喘息のある生徒への学校の対応については、「発作時対応」100%、次いで「ホコリ対策」と「運動時の注意」20.0%の順であった。（複数回答）



（３）食物アレルギー

食物アレルギーで、1 年間（H28.4.1 ～H29.3.31）に「学校で誤食があった」と「学校の食事で初めて食物アレルギーを発症した」と回答があった学校はなかった。

また、誤食事例の危険性があったと思われる「ヒヤリハット事例」についても該当する学校はなかった。

Ⅳ　資料

集計対象の概要

（１）保護者調査

①回答状況

【園児】

区分	対象者数 (A)	回収数 (B)	回収率% (B/A)
0 歳児	224	196	87.5
1 歳児	419	340	81.1
2 歳児	519	480	92.5
3 歳児	678	575	84.5
4 歳児	666	603	90.5
5 歳児	704	590	83.8

【小学生】

区　分	対象者数 A	回収数 B	回収率% (B/A)
小学 1 年生	450	411	91.3
小学 2 年生	454	400	88.1
小学 3 年生	422	388	91.9
小学 4 年生	494	441	89.3
小学 5 年生	430	376	87.4
小学 6 年生	500	437	87.4

【中学生】

区　分	対象者数 A	回収数 B	回収率% (B/A)
中学 1 年生	437	378	86.5
中学 2 年生	425	334	78.6
中学 3 年生	443	328	74.0

②アレルギー疾患の状態について　（人）

区　分	園児	小学校	中学校
現在、何らかのアレルギー疾患がある	607	750	370
現在アレルギー疾患はないが、 以前アレルギー疾患があった	229	198	96
現在も以前も、アレルギー疾患はない	1,933	1,501	567

③現在のアレルギー疾患がある児・児童生徒数　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
アトピー性皮膚炎	296	272	97
食物アレルギー	240	195	80
気管支喘息	236	222	70
アレルギー性鼻炎	134	438	248
アレルギー性結膜炎	39	143	83
じんましん	87	83	37
アナフィラキシー	38	49	12
口腔アレルギー症候群	22	38	12
その他	42	61	36

④複数のアレルギー疾患がある児・児童生徒数　（人）

疾患数	園児	小学生	中学生
1	280	372	187
2	89	144	60
3	31	65	25
4	7	17	8
5	5	9	5
6	2	2	0
7	0	0	0
8	0	2	0

⑤アレルギー疾患別の医師による診断　（人）

区　分		園児	小学生	中学生
アトピー性皮膚炎	診断あり	135	175	64
	その傾向がある	125	72	22
	診断なし	36	25	12
食物アレルギー	診断あり	189	136	44
	その傾向がある	35	23	14
	診断なし	16	36	22
気管支喘息	診断あり	130	155	42
	その傾向がある	89	51	23
	診断なし	17	16	5
アレルギー性鼻炎	診断あり	64	327	186
	その傾向がある	40	75	45
	診断なし	30	36	17
アレルギー性結膜炎	診断あり	8	86	59
	その傾向がある	9	35	16
	診断なし	22	22	8
じんましん	診断あり	37	43	13
	その傾向がある	18	18	14
	診断なし	32	22	10
アナフィラキシー	診断あり	20	25	3
	その傾向がある	2	4	2
	診断なし	16	20	7
口腔アレルギー症候群	診断あり	1	9	5
	その傾向がある	1	9	0
	診断なし	20	20	7
その他	診断あり	32	40	27
	その傾向がある	2	5	3
	診断なし	8	16	6

⑥アレルギー疾患別の受診状況　（人）

区　分		園児	小学生	中学生
アトピー性皮膚炎	定期的に受診	82	69	16
	症状があれば	44	81	35
	1年以内受診なし	8	18	10
食物アレルギー	定期的に受診	89	41	3
	症状があれば	41	33	14
	1年以内受診なし	54	56	25
気管支喘息	定期的に受診	71	72	11
	症状があれば	55	65	16
	1年以内受診なし	2	11	12
アレルギー性鼻炎	定期的に受診	28	90	35
	症状があれば	33	203	115
	1年以内受診なし	2	22	24
アレルギー性結膜炎	定期的に受診	0	15	8
	症状があれば	7	57	40
	1年以内受診なし	1	9	7
じんましん	定期的に受診	11	6	3
	症状があれば	23	24	6
	1年以内受診なし	3	11	3
アナフィラキシー	定期的に受診	3	10	0
	症状があれば	13	6	1
	1年以内受診なし	4	8	0
口腔アレルギー症候群	定期的に受診	0	1	1
	症状があれば	1	3	2
	1年以内受診なし	0	4	2
その他	定期的に受診	4	5	2
	症状があれば	17	22	20
	1年以内受診なし	10	11	5

⑦以前アレルギー疾患があった児、児童生徒、（　）内は治療不要の診断があった者（人）

区　分	園児		小学生		中学生	
アトピー性皮膚炎	113	(48)	115	(46)	69	(35)
食物アレルギー	280	(180)	221	(82)	93	(18)
気管支喘息	89	(45)	148	(69)	63	(31)
アレルギー性鼻炎	40	(8)	113	(31)	62	(26)
アレルギー性結膜炎	26	(3)	50	(17)	46	(16)
じんましん	75	(36)	83	(35)	40	(17)
アナフィラキシー	21	(2)	22	(4)	11	(3)
口腔アレルギー症候群	20	(2)	15	(1)	8	(0)
その他	28	(9)	21	(7)	9	(3)

⑧食物アレルギーの食事制限と誤食の発生状況　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
家庭での食事制限がある	160	124	46
園、学校で食事制限がある	162	106	39
食事制限への医師の診断がある	155	97	29
除去を依頼する書類を園、学校に提出している	155	91	29
園、学校で誤食の発生があった	30	10	4

⑨園、学校で発生した誤食の発生人数　（人）

回数	園児	小学生	中学生
1 回	19	7	2
2 回	7	1	0
3 回	1	0	1
4 回	0	1	0
5 回	1	0	0
10 回	0	1	0

⑩食物アレルギーで園、学校の対応で困っていること　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
細かな除去対応の体制がない	5	6	3
除去対応の調理を充分してもらえない	1	7	2
弁当持参が必要	4	7	0
配膳などの対応	4	5	1
症状発症時の対応	11	10	1

⑪食物アレルギーで医師の診断がない場合の食事制限の判断方法　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
血液検査の結果	24	26	15
家族の考え	15	20	12
他の人から言われた	1	0	0
その他	10	15	6

⑫エピペンの処方　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
処方のある児、児童生徒数 （　　）施設、学校で保管あり	12(7)	17(10)	1(1)
うち、処方された本数1本	4	5	0
2本	8	11	0
3本	0	1	0

⑬施設、学校でのエピペンの使用状況　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
使用があった	1	0	0
今まではないが、必要な時には使用できる体制はある	10	17	1
園では職員等が使用できる体制にない（使用できない）	1	0	0
無回答	12	17	1

⑭アナフィラキシー児、児童生徒で、施設、学校の対応に対して心配や困っていること　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
エピペンの保管をしてもらえない	2	0	0
エピペンを適切に使用してもらえない	0	0	0
発症時の連絡が遅い	0	0	0
特になし	7	10	0

⑮アナフィラキシー児、児童生徒で、エピペンの処方がない理由　（人）

区　分	園児	小学生	中学生
今まで医師からの処方がなかった	7	5	3
医師から処方不要と言われている	3	2	0
年齢などの理由で処方できない	3	0	0
家族が心配で処方をうけていない	1	0	0

（２）施設調査

【保育園・幼稚園】

（１）施設の概要

①設立母体

設立	施設数
公立保育所	10
私立保育所	11
公立幼稚園	0
私立幼稚園	3
公立認定こども園	0
私立認定こども園	3
企業内（院内）保育所	0
その他	1

②１施設あたりの保育職員数

１施設あたりの職員数	施設数
5～9 人	1
10～14 人	3
15～19 人	3
20～24 人	4
25～29 人	4
30～34 人	3
35～39 人	4
40～44 人	2
45～49 人	0
50 人以上	1

③１施設当たりの看護師職員数

看護師職員数	施設数
0 人	16
1 人	8
2 人以上	2
無回答	2

④１施設あたりの栄養士職員数

栄養士職員数	施設数
0 人	12
1 人	7
2 人以上	3
無回答	6

⑤１施設あたりのクラス別入所者数　（施設数）

入所者数	5歳児クラス	4歳児クラス	3歳児クラス	2歳児クラス	1歳児クラス	0歳児クラス
0～9人	3	2	2	7	9	16
10～19人	5	6	8	8	11	11
20～29人	10	13	11	10	5	1
30～39人	8	5	5	3	3	0
40～49人	1	1	1	0	0	0
50人以上	1	1	1	0	0	0

（２）アレルギー疾患のり患状況

①疾患別の受け入れ状況　（施設数）

区　分	受け入れている	受け入れていない	把握していない（又は不明）	無回答
アトピー性皮膚炎	26	1	0	1
食物アレルギー	27	0	0	1
気管支喘息	20	3	2	3
アレルギー性鼻炎	13	4	8	3
アレルギー性結膜炎	11	4	9	4
じんましん	16	3	4	5
アナフィラキシー	16	7	2	3
口腔アレルギー症候群	7	6	10	5

②施設で把握するり患児の状況　※（　）内は食物アレルギーが要因となる者　（人）

区　分	在籍人数	医師の診断を受けた人数	園で対応が必要な人数	緊急時薬の処方者数
アトピー性皮膚炎	102	48	23	—
食物アレルギー	195	169	167	—
気管支喘息	66	64	14	—
アレルギー性鼻炎	19	18	3	—
アレルギー性結膜炎	6	6	0	—
じんましん	25（ 6）	25	—	5
アナフィラキシー	17（16）	17	—	10
口腔アレルギー症候群	0	0	0	—

（３）食物アレルギーの受け入れ状況

①クラス別食物アレルギーり患者児数

区　分	人数
0 歳児クラス	18
1 歳児クラス	40
2 歳児クラス	35
3 歳児クラス	31
4 歳児クラス	22
5 歳児クラス	23

②昨年１年間（H28.4.1～H29.3.31）の誤食の発生状況と
1 施設あたりの発生回数の内訳

区　分	施設数
誤食があった	8
誤食がなかった	20

回数	施設数
1 回	5
2 回	2
3 回	0
4 回	0
5 回以上	1

③初めて保育施設で食物アレルギーが発症した状況

区　分	施設数
発症があった	4
発症がなかった	24

発生事例	施設数
1 例	3
2 例	0
3 例以上	1

④食物アレルギー児のヒヤリハットの発生状況と
１施設あたりの発生回数

	施設数
発生した	11
発生しなかった	16

	施設数
0 回	2
1 回	4
2 回	3
5 回	1
9 回以上	1

⑤保育施設での食物アレルギー児への対応方法

区　分	人数
給食から自分で除去	5
原因食物を除いた給食提供のみ	84
代替食提供	112
弁当持参	1
その他	3

⑥食物アレルギーに、アナフィラキシーの児の対応で困ったこと（複数回答）

区　分	施設数
除去内容の詳細がわかりにくい	0
献立作成が大変	6
調理が大変	10
配膳や座席など食事体制が大変	11
食事中の児の状態観察が大変	6
症状発症時の対応が心配	12
医療機関により対応が異なる	2
保護者への対応	5
職員間の連携	9
特になし	3
該当児がいない	0
その他	3

【小学校】

（１）アレルギー疾患り患状況

①アレルギー疾患の在籍状況

（①健康調査などによる自己申告人数、

②現在医療で治療中や、管理指導表などで指導をうけている人数）　（人）

区　分	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
アトピー性皮膚炎	16	7	27	13	19	8	30	19	27	9	25	16
食物アレルギー	27	12	15	13	16	12	29	13	22	14	24	16
気管支喘息	13	7	22	16	17	14	31	20	18	9	22	9
アレルギー性鼻炎	39	20	51	27	62	22	71	45	70	39	70	25
アレルギー性結膜炎	29	7	19	5	33	9	30	14	46	18	36	15
じんましん	3	0	1	0	0	0	4	3	6	0	0	1
アナフィラキシー	0	2	1	4	0	2	2	3	0	4	1	2
口腔アレルギー症候群	4	1	1	0	2	1	4	3	1	1	3	4

②気管支喘息児童への対応状況（複数回答）

区　分	学校数
発作時対応	2
ホコリ対策	1
動物対策	0
運動時の注意	4
特になし	5
該当児がいない	0
その他	2

③アレルギー性鼻炎・結膜炎の児への学校での対応（複数回答）

区　分	学校数
花粉時期の屋外活動制限	2
花粉時期の窓の開閉注意	0
時期的なマスク装着	4
ホコリ対策	1
動物対策	1
特になし	6
該当児がいない	0
その他	1

（２）食物アレルギー

①昨年１年間（H28.4.1～H29.3.31）の誤食の発生状況と
１施設あたりの発生回数

区　分	学校数
誤食があった	2
誤食がなかった	8

発現回数	発生回数	学校数
0 回	0	1
1 回	2	1

②昨年１年間（H28.4.1～H29.3.31）、学校の食事で、
それまで制限していなかった食物によるアレルギー症状が発症した状況

区　分	学校数
発症があった	2
発症がなかった	8

発生事例	学校数
1 例	1
2 例以上	1

③食物アレルギー児のヒヤリハットの発生状況と１施設あたりの発生回数

区　分	学校数
発生した	0
発生しなかった	10

【中学校】

（１）アレルギー疾患のり患状況

①アレルギー疾患の在籍状況

（①健康調査などによる自己申告人数、

②現在医療で治療中や、管理指導表などで指導を受けている人数）　　（人）

区　分	１年生		２年生		３年生	
	①	②	①	②	①	②
アトピー性皮膚炎	12	7	14	10	18	12
食物アレルギー	31	10	24	12	24	8
気管支喘息	10	9	18	16	21	20
アレルギー性鼻炎	40	45	38	432	60	67
アレルギー性結膜炎	35	10	25	18	44	32
じんましん	5	3	3	1	4	0
アナフィラキシー	1	1	0	0	1	2
口腔アレルギー症候群	3	1	0	1	2	1

②気管支喘息生徒へ対応している学校数（複数回答）

区　分	学校数
発作時対応	5
ホコリ対策	1
動物対策	0
運動時の注意	1
特になし	0
該当児がいない	0
その他	0

③アレルギー性鼻炎・結膜炎生徒へ対応している学校数（複数回答）

区　分	学校数
花粉時期の屋外活動制限	0
花粉時期の窓の開閉注意	2
時期的なマスク装着	4
ホコリ対策	0
動物対策	0
特になし	1
該当児がいない	0
その他	0

（２）食物アレルギー

①昨年１年間（H28.4.1～H29.3.31）の誤食の発生状況

区　分	学校数
誤食があった	0
誤食がなかった	5

②昨年１年間（H28.4.1～H29.3.31）、学校の食事で、
それまで制限していなかった食物によるアレルギー症状が発症した状況

区　分	学校数
発症があった	0
発症がなかった	5

③食物アレルギー児のヒヤリハットの発生状況

区　分	学校数
発生した	0
発生しなかった	5

Ⅴ　資料編（調査票）

鳥取県アレルギー疾患実態調査（保育所・幼稚園　保護者向け）

問１ お子様は何歳児クラスですか。該当に○をつけてください。（平成 29 年２月１日現在）

ア．０歳児ｸﾗｽ　イ．１歳児ｸﾗｽ　ウ．２歳児ｸﾗｽ　エ．３歳児（年少児）ｸﾗｽ

オ．４歳児（年中児）ｸﾗｽ　カ．５歳児（年長児）ｸﾗｽ

問２ お子様のアレルギー疾患の状態について、当てはまる項目に○をつけてください。

ア. 現在、何らかのアレルギー疾患がある　→ **問3、4へ**

イ. 現在アレルギー疾患はないが、以前アレルギー疾患があった　→ **問4へ**

ウ. 現在も以前も、アレルギー疾患はない　→ **これで終了です。ありがとうございました。**

問３ 現在のお子様のアレルギー疾患について、医師からそのように診断された場合は「１」に、はっきりとは診断されていないが、医師からその傾向があると言われている場合は「２」に、医療機関での診断は無いが疾患があると思われる場合は「３」に、○をつけてください。

※1　該当する疾患で「１」に○をつけた疾患のうち、最近の受診の状況に近いものに、○をしてください。

	該当する疾患（お子様の該当する疾患すべてに○をつけて下さい）	※1【「１」の方へ】受診の状況 a：定期的に受診　b：症状あれば受診 c：この１年以内は受診なし
①アトピー性皮膚炎	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
②食物アレルギー	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
③気管支喘息	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
④アレルギー性鼻炎	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑤アレルギー性結膜炎	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑥じんましん	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑦アナフィラキシー	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑧口腔アレルギー症候群	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑨その他（　　）	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c

問４ お子様の、今はないが以前あったアレルギー疾患について、該当する疾患の欄に○をつけてください。

※2○をつけた項目で医師から治療の必要がないと言われた場合は有に○をしてください。

	該当する疾患（お子様の該当する疾患すべてに○をつけてください）	※2 医師から治療不要の診断
① アトピー性皮膚炎		有　・　無
② 食物アレルギー		有　・　無
③ 気管支喘息		有　・　無
④ アレルギー性鼻炎		有　・　無
⑤ アレルギー性結膜炎		有　・　無
⑥ じんましん		有　・　無
⑦ アナフィラキシー		有　・　無
⑧ 口腔アレルギー症候群		有　・　無
⑨ その他（　　）		有　・　無

＜裏面に続く＞

【問5、問6は該当の方のみお答えください】

【問3で「②食物アレルギー」の1・2・3のいずれかに○を付けられた方】にお伺いします。

問5-1 該当するものに○や回数を記入してください。

原因食物	卵 ・ 牛乳 ・ 小麦 ・ その他（　　）
家庭での食事制限	あり ・ なし
園での食事制限	あり ・ なし ⟶ **かつ家庭での制限が「あり」の場合は問5-3へ** ↳ **問5-2へ**
食事制限への医師の診断	あり ・ なし ⟶ **問5-4へ**

問5-2 【園での食事制限「あり」と答えられた方】にお伺いします。

① 「除去を依頼する書類」を提出していますか。　ア．している　イ．していない

② これまでに園での誤食がありましたか。　ア．あり　イ．なし

↳「計　　回　うち平成28年度　　回）

③ 園の対応で、困っていることや心配なことはありますか（複数回答可）。

ア．細かな除去対応の体制がない　イ．除去対応の調理を充分してもらえない

ウ．弁当持参が必要　エ．配膳などの対応　オ．症状発症時の対応

カ．特になし　キ．その他（　　）

問5-3【家庭での制限「あり」、園での制限「なし」の方】にお伺いします。

① その理由は何ですか。

ア．園での制限不要　イ．園では対応困難　ウ．その他（　　）

問5-4 【食事制限への医師の診断が「なし」の方】にお伺いします。

① 食事の制限の判断はどのようにされていますか。

ア．血液検査の結果　イ．家族の考え　ウ．他の人から言われた

エ．その他（　　）

【問3で「⑦アナフィラキシー」の1・2・3のいずれかに○を付けられた方】にお伺いします。

問6-1「エピペン®」は処方してもらっていますか。該当するものに○や本数を記入してください。

エピペン®処方　あり（　　本）・　なし ⟶ **問6-3へ**

↓

問6-2 【エピペン®処方「あり」の方】にお伺いします。

＜次ページへ続く＞

① 園でエピペン®を保管してもらっていますか。　　ア．いる　　イ．いない

② 園でエピペン®を使用したことがありますか。

ア．あり　　イ．今まではないが、必要な時には園職員等が使用できる体制はある
ウ．園では職員等が使用できる体制にない

③ 園での対応で困っていることや心配なことはありますか（複数回答可）。

ア．エピペン®の保管をしてもらえない　　イ．エピペン®を適切に使用してもらえない
ウ．発症時の連絡が遅い　　エ．特になし
オ．その他（　　）

問6-3 【エピペン®処方「なし」の方】にお伺いします。

① その理由はなんですか。
ア．今まで医師からの処方がなかった　　イ．医師から処方不要と言われている
ウ．年齢などの理由で処方できない　　エ．家族が心配で処方をうけていない
オ．その他（　　）

問7 アレルギー疾患の対応で園や行政に要望等あれば、参考までにご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

鳥取県アレルギー疾患実態調査（小学校　保護者向け）

問１ お子様は、現在、何年生ですか。　（　　年生）

問２ お子様のアレルギー疾患の状態について、当てはまる項目に○をつけてください。

ア. 現在、何らかのアレルギー疾患がある　→ **問3、4へ**

イ. 現在アレルギー疾患はないが、以前アレルギー疾患があった　→ **問4へ**

ウ. 現在も以前も、アレルギー疾患はない　→ **これで終了です。ありがとうございました。**

問３ 現在のお子様のアレルギー疾患について、医師からそのように診断された場合は「１」に、はっきりとは診断されていないが、医師からその傾向があると言われている場合は「２」に、医療機関での診断は無いが疾患があると思われる場合は「３」に、○をつけてください。

※1 該当する疾患で「１」に○をつけた疾患のうち、最近の受診の状況に近いものに、○をしてください。

	該当する疾患（お子様の該当する疾患すべてに○をつけて下さい）	※1【「１」の方へ】受診の状況 a：定期的に受診　b：症状あれば受診 c：この１年以内は受診なし
①アトピー性皮膚炎	１・２・３	a・b・c
②食物アレルギー	１・２・３	a・b・c
③気管支喘息	１・２・３	a・b・c
④アレルギー性鼻炎	１・２・３	a・b・c
⑤アレルギー性結膜炎	１・２・３	a・b・c
⑥じんましん	１・２・３	a・b・c
⑦アナフィラキシー	１・２・３	a・b・c
⑧口腔アレルギー症候群	１・２・３	a・b・c
⑨その他（　　）	１・２・３	a・b・c

問４ お子様の、今はないが以前あったアレルギー疾患について、該当する疾患の欄に○をつけてください。

※2 ○の項目で医師から治療の必要がないと言われた場合は有に○をしてください。

	該当する疾患（お子様の該当する疾患すべてに○をつけて下さい）	※2 医師から治療不要の診断
①アトピー性皮膚炎		有・無
②食物アレルギー		有・無
③気管支喘息		有・無
④アレルギー性鼻炎		有・無
⑤アレルギー性結膜炎		有・無
⑥じんましん		有・無
⑦アナフィラキシー		有・無
⑧口腔アレルギー症候群		有・無
⑨その他（　　）		有・無

【問５、問６は該当の方のみお答えください】

【問３で「②食物アレルギー」の１・２・３のいずれかに○を付けられた方】にお伺いします。

＜裏面に続く＞

問5-1 該当するものに○や回数を記入してください。

原因食物	卵 ・ 牛乳 ・ 小麦 ・ その他（　　）
家庭での食事制限	あり ・ なし
学校での食事制限	あり ・ なし → **かつ家庭での制限が「あり」の場合は問5-3へ** ↳ **問5-2へ**
食事制限への医師の診断	あり ・ なし → **問5-4へ**

問5-2 【学校での食事制限「あり」と答えられた方】にお伺いします。

① 「除去を依頼する書類」を提出していますか。　ア．している　イ．していない

② これまでに学校での誤食がありましたか。　ア．あり　イ．なし

↳（計　　回　うち平成28年度　　回）

③ 学校の対応で、困っていることや心配なことはありますか（複数回答可）。

ア．細かな除去対応の体制がない　イ．除去対応の調理を充分してもらえない

ウ．弁当持参が必要　エ．配膳などの対応　オ．症状発症時の対応

カ．特になし　キ．その他（　　）

問5-3 【家庭での制限「あり」、学校での制限「なし」の方】にお伺いします。

① その理由は何ですか。

ア．学校での制限不要　イ．学校では対応困難　ウ．その他（　　）

問5-4 【食事制限への医師の診断が「なし」の方】にお伺いします。

① 食事の制限の判断はどのようにされていますか。

ア．血液検査の結果　イ．家族の考え　ウ．他の人から言われた

エ．その他（　　）

【問3で「⑦アナフィラキシー」の1・2・3のいずれかに○を付けられた方】にお伺いします。

問6-1 「エピペン®」は処方してもらっていますか。該当するものに○や本数を記入してください。

エピペン®処方　あり（　　本）・　なし → **問6-3へ**

↓

問6-2 【エピペン®処方「あり」の方】にお伺いします。

③ 学校でエピペン®を保管してもらっていますか。　ア．いる　イ．いない

④ 学校でエピペン®を使用したことがありますか。

ア．あり　イ．今まではないが、必要な時には使用できる体制はある

ウ．学校では使用できない

<次ページへ続く>

③ 学校での対応で困っていることや心配なことはありますか（複数回答可）。

ア．エピペン®の保管をしてもらえない　　イ．エピペン®を適切に使用してもらえない

ウ．発症時の連絡が遅い　　エ．特になし

オ．その他（　　）

問6-3 【エピペン®処方「なし」の方】にお伺いします。

① その理由はなんですか。

ア．今まで医師からの処方がなかった　　イ．医師から処方不要と言われている

ウ．年齢などの理由で処方できない　　エ．家族が心配で処方をうけていない

オ．その他（　　）

問7 アレルギー疾患の対応で学校や行政に要望等あれば、参考までにご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

鳥取県アレルギー疾患実態調査（中学校　保護者向け）

問１ お子様は、現在、何年生ですか。（　　年生）

問２ お子様のアレルギー疾患の状態について、当てはまる項目に○をつけてください。

ア. 現在、何らかのアレルギー疾患がある　→ **問3、4へ**

イ. 現在アレルギー疾患はないが、以前アレルギー疾患があった　→ **問4へ**

ウ. 現在も以前も、アレルギー疾患はない　→ **これで終了です。ありがとうございました。**

問３ 現在のお子様のアレルギー疾患について、医師にてそのように診断された場合は「１」に、はっきりとは診断されていないが、医師からその傾向があると言われている場合は「２」に、医療機関での診断は無いが疾患があると思われる場合は「３」に、○をつけてください。

※1 該当する疾患で「１」に○をつけた疾患のうち、最近の受診の状況に近いものに、○をしてください。

	該当する疾患（お子様の該当する疾患すべてに○をつけて下さい）	※1【「１」の方へ】受診の状況 a：定期的に受診　b：症状あれば受診 c：この１年以内は受診なし
①アトピー性皮膚炎	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
②食物アレルギー	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
③気管支喘息	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
④アレルギー性鼻炎	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑤アレルギー性結膜炎	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑥じんましん	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑦アナフィラキシー	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑧口腔アレルギー症候群	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c
⑨その他（　　）	１　・　２　・　３	a　・　b　・　c

問４ お子様の、今はないが以前あったアレルギー疾患について、該当する疾患の欄に○をつけてください。

※2 ○をつけた項目で医師から治療の必要がないと言われた場合は有に○をしてください。

	該当する疾患（お子様の該当する疾患すべてに○をつけてください）	※2 医師から治療不要の診断
①アトピー性皮膚炎		有　・　無
②食物アレルギー		有　・　無
③気管支喘息		有　・　無
④アレルギー性鼻炎		有　・　無
⑤アレルギー性結膜炎		有　・　無
⑥じんましん		有　・　無
⑦アナフィラキシー		有　・　無
⑧口腔アレルギー症候群		有　・　無
⑨その他（　　）		有　・　無

＜裏面に続く＞

【問5、問6は該当の方のみお答えください】

【問3で「②食物アレルギー」の1・2・3のいずれかに○を付けられた方】にお伺いします。

問5-1 該当するものに○や回数を記入してください。

原因食物	卵 ・ 牛乳 ・ 小麦 ・ その他（　　）
家庭での食事制限	あり ・ なし
学校での食事制限	あり ・ なし → **かつ家庭での制限が「あり」の場合は問5-3へ** ↳ **問5-2へ**
食事制限への医師の診断	あり ・ なし → **問5-4へ**

問5-2 【学校での食事制限「あり」と答えられた方】にお伺いします。

① 「除去を依頼する書類」を提出していますか。　ア．している　イ．していない

② これまでに学校での誤食がありましたか。　ア．あり　イ．なし

↳（計　　回　うち平成28年度　　回）

③ 学校の対応で、困っていることや心配なことはありますか（複数回答可）。

ア．細かな除去対応の体制がない　イ．除去対応の調理を充分してもらえない

ウ．弁当持参が必要　エ．配膳などの対応　オ．症状発症時の対応

カ．特になし　キ．その他（　　）

問5-3 【家庭での制限「あり」、学校での制限「なし」の方】にお伺いします。

① その理由は何ですか。

ア．学校での制限不要　イ．学校では対応困難　ウ．その他（　　）

問5-4 【食事制限への医師の診断が「なし」の方】にお伺いします。

① 食事の制限の判断はどのようにされていますか。

ア．血液検査の結果　イ．家族の考え　ウ．他の人から言われた

エ．その他（　　）

【問3で「⑦アナフィラキシー」の1・2・3のいずれかに○を付けられた方】にお伺いします。

問6-1「エピペン®」は処方してもらっていますか。該当するものに○や本数を記入してください。

エピペン®処方　あり（　　本）　・　なし → **問6-3へ**

↓

問6-2 【エピペン®処方「あり」の方】にお伺いします。

＜次ページへ続く＞

⑤ 学校でエピペン®を保管してもらっていますか。　　ア．いる　　イ．いない

⑥ 学校でエピペン®を使用したことがありますか。

ア．あり　　イ．今まではないが、必要な時には使用できる体制はある
ウ．学校では使用できない

③ 学校での対応で困っていることや心配なことはありますか（複数回答可）。

ア．エピペン®の保管をしてもらえない　　イ．エピペン®を適切に使用してもらえない
ウ．発症時の連絡が遅い　　エ．特になし
オ．その他（　　）

問6-3 【エピペン®処方「なし」の方】にお伺いします。

① その理由はなんですか。
ア．今まで医師からの処方がなかった　　イ．医師から処方不要と言われている
ウ．年齢などの理由で処方できない　　エ．家族が心配で処方をうけていない
オ．その他（　　）

問7 アレルギー疾患の対応で学校や行政に要望等あれば、参考までにご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

鳥取県アレルギー疾患実態調査（保育所・幼稚園）

問１ 貴施設の概要について、お聞かせください。

① 設立母体

ア．公立保育所　　イ．私立保育所　　ウ．公立幼稚園　　エ．私立幼稚園
オ．公立認定こども園　　カ．私立認定こども園　　キ．企業内（院内）保育所
ク．その他（　　）

② 現時点（調査時点）での保育職員の概数

（約　　人　→うち 看護師　　人　栄養士　　人）

③ ２月１日現在の入所児の概数

０歳児ｸﾗｽ　（約　　人）　　１歳児ｸﾗｽ　（約　　人）
２歳児ｸﾗｽ　（約　　人）　　３歳児（年少児）ｸﾗｽ（約　　人）
４歳児（年中児）ｸﾗｽ（約　　人）　　５歳児（年長児）ｸﾗｽ（約　　人）

問２ 各アレルギー疾患患児の在籍状況について、当てはまるものに○と人数をお書きください。（受け入れの人数は、 医療機関での診断によるか不明の児も含めてください。また、受け入れているが、たまたま現在不在の場合は０人と記載してください）

① アトピー性皮膚炎

ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない

ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「②食物アレルギー」へ**

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、塗り薬など園での対応をしている児（約　　人）

② 食物アレルギー

ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない

ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「③気管支炎喘息」へ**

「ア」のうち、医療機関での診断をうけ、診断書や制限食依頼書などのある児
（約　　人　→うち ０歳児ｸﾗｽ：　　人　１歳児ｸﾗｽ：　　人　２歳児ｸﾗｽ：　　人
３歳児ｸﾗｽ：　　人　４歳児ｸﾗｽ：　　人　５歳児ｸﾗｽ：　　人）
「ア」のうち、制限食など園での対応をしている児（約　　人）

↓ 園での対応方法について教えてください

a．給食から自分で除去（　　人）　　b．原因食物を除いた給食提供のみ（　　人）
c．代替食提供（　　人）　　d．弁当持参（　　人）　　e．その他（　　人）

③ 気管支炎喘息

ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない

ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「④アレルギー性鼻炎」へ**

＜裏面に続く＞

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、発作時の対応など園での対応をしている児（約　　人）

④ アレルギー性鼻炎
ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない
ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「⑤アレルギー性結膜炎」へ**

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、季節の外出制限など園での対応をしている児（約　　人）

⑤ アレルギー性結膜炎
ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない
ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「⑥じんましん」へ**

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、季節の外出制限など園での対応をしている児（約　　人）

⑥ じんましん
ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない
ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「⑦アナフィラキシー」へ**

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、食物アレルギーによるじんましん児（約　　人）
「ア」のうち、緊急時の飲み薬の処方を受けている児（約　　人）

⑦ アナフィラキシー
ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない
ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは「⑧口腔アレルギー症候群」へ**

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、食物アレルギーによるアナフィラキシー児（約　　人）
「ア」のうち、緊急時の飲み薬の処方を受けている児（約　　人）
「ア」のうち、エピペン®（緊急時自己注射薬）の処方を受けている児（約　　人）
「ア」のうち、緊急時対応マニュアルなどで園での対応をしている児（約　　人）

⑧ 口腔アレルギー症候群
ア．受け入れている（約　　人）　　イ．受け入れていない
ウ．把握していない（または不明）　　→ **イ、ウは問3へ**

「ア」のうち、医療機関での診断を受けた児（約　　人）
「ア」のうち、制限食など園での対応をしている児（約　　人）

＜次ページへ続く＞

問３ 食物アレルギー児で、昨年度１年間（H28.4.1～H29.3.31）に誤食事例はありましたか。

ア．あり（約　　回　うち症状発現した回数：約　　回）　イ．なし

ウ．該当児がいない

問４ 昨年度１年間（H28.4.1～H29.3.31）に、園の食事で初めて食物アレルギーを発症した例はありましたか。

ア．あり（約　　例）　イ．なし

問５　食物アレルギー児で、誤食事例にまでならなかったが、その危険性があったと思われる「ヒヤリハット」事例を報告する体制はありますか。

ア．あり（昨年度報告数　約　　回）　イ．なし　ウ．該当児がいない

問６ 今まで食物アレルギー、アナフィラキシーの児に対する対応で困ったことはどのようなことですか（複数回答可）。

ア．除去内容の詳細がわかりにくい　イ．献立作成が大変　ウ．調理が大変

エ．配膳や座席など食事体制が大変　オ．食事中の児の状態観察が大変

カ．症状発症時の対応が心配　キ．医療機関により対応が異なる

ク．保護者への対応　ケ．職員間の連携　コ．特になし

サ．該当児がいない

シ．その他（　　）

問７ アレルギー対応に関して、行政に要望等あれば、参考までにご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

鳥取県アレルギー疾患実態調査（小学校）

問１ 貴施設の概要について、お聞かせください。

① ２月１日現在の児童数（特別支援学級の児童は、学年の内数に含める。）

１年生（　　人）　２年生（　　人）　３年生（　　人）

４年生（　　人）　５年生（　　人）　６年生（　　人）

問２ アレルギー疾患患児は、何人ぐらい在籍していますか。枠内に人数をお書きください。

（該当児がいない箇所は、「０」人を記入してください。）

①；健康調査などによる自己申告人数

②；現在、医療機関で治療中や、管理指導表などで指導をうけている人数

	１年生		２年生		３年生		４年生		５年生		６年生	
	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	①	②
アトピー性皮膚炎												
食物アレルギー												
気管支喘息												
アレルギー性鼻炎												
アレルギー性結膜炎												
じんましん												
アナフィラキシー												
口腔アレルギー症候群												

問３ 気管支喘息について、学校で何らかの対応をしている児童はいますか（複数回答可）。

ア．発作時対応　　イ．ホコリ対策　　ウ．動物対策　　エ．運動時の注意

オ．特になし　　カ．該当児がいない

キ．その他（　　）

問４ 食物アレルギー児で、昨年度１年間（H28.4.1～H29.3.31）に誤食事例はありましたか。

ア．あり（約　　回　そのうち症状発現した回数；約　　回）　　イ．なし

ウ．該当児がいない

問５ 昨年度１年間（H28.4.1～H29.3.31）に、学校での食事で、それまで制限をしていなかった食物によるアレルギー症状を発症した例はありましたか。

ア．あり（約　　例）　　イ．なし

問６ 食物アレルギー児で、昨年度１年間（H28.4.1～H29.3.31）に、誤食事例にまでならなかったが、その危険性があったと思われる「ヒヤリハット」事例はありましたか。

ア．あり（報告数：約　　回）　　イ．なし　　ウ．該当児がいない

＜裏面に続く＞

問７ アレルギー性鼻炎・結膜炎について、学校で何らかの対応をしている児童はいますか（複数回答可）。

ア．花粉時期の屋外活動制限　　イ．花粉時期の窓の開閉注意

ウ．時期的なマスク装着　　エ．ホコリ対策　　オ．動物対策

カ．特になし　　キ．該当児がいない

ク．その他（　　）

問８ アレルギー対応に関して、行政に要望等あれば、参考までにご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

鳥取県アレルギー疾患実態調査（中学校）

問１　貴施設の概要について、お聞かせください。

①　２月１日現在の生徒数（特別支援学級の児童は、学年の内数に含める。）

１年生（　　人）　２年生（　　人）　３年生（　　人）

問２　アレルギー疾患のある生徒は、何人ぐらい在籍していますか。枠内に人数をお書きください。（該当生徒がいない箇所は、「０」人を記入してください。）

①；健康調査などによる自己申告人数

②；現在、医療機関で治療中や、管理指導表などで指導をうけている人数

	１年生		２年生		３年生	
	①	②	①	②	①	②
アトピー性皮膚炎						
食物アレルギー						
気管支喘息						
アレルギー性鼻炎						
アレルギー性結膜炎						
じんましん						
アナフィラキシー						
口腔アレルギー症候群						

問３　気管支喘息について、学校で何らかの対応をしている生徒はいますか（複数回答可）。

ア．発作時対応　　イ．ホコリ対策　　ウ．動物対策　　エ．運動時の注意

オ．特になし　　カ．該当生徒がいない

キ．その他（　　）

問４　食物アレルギーのある生徒で、昨年度１年間（H28.4.1～H29.3.31）に誤食事例はありましたか。

ア．あり（約　　回　そのうち症状発現した回数；約　　回）　　イ．なし

ウ．該当生徒がいない

問５　昨年度１年間（H28.4.1.～H29.3.31）に、学校での食事で、それまで制限をしていなかった食物によるアレルギー症状を発症した例はありましたか。

ア．あり（約　　例）　　イ．なし

＜裏面に続く＞

問６ 食物アレルギーのある生徒で、昨年度１年間（H28.4.1.～H29.3.31）に、誤食事例にまでならなかったが、その危険性があったと思われる「ヒヤリハット」事例はありましたか。

ア．あり（報告数：約　　回）　　イ．なし　　ウ．該当生徒がいない

問７ アレルギー性鼻炎・結膜炎について、学校で何らかの対応をしている生徒はいますか（複数回答可）。

ア．花粉時期の屋外活動制限　　イ．花粉時期の窓の開閉注意

ウ．時期的なマスク装着　　エ．ホコリ対策　　オ．動物対策

カ．特になし　　キ．該当生徒がいない

ク．その他（　　）

問８ アレルギー対応に関して、行政に要望等あれば、参考までにご記入ください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。